文部科学省

会議後修正

外国語WG取りまとめ案

目次

１．現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性

（１）現状の成果
・校種共通の成果
・学校種ごとの成果

（２）現状の課題
・AI時代に外国語を学ぶ本質的意義
・語彙や文法事項に関する課題
・言語活動に関する課題
・AIを含むデジタル学習基盤の活用
・段階的な指導・校種間接続に関する課題
・学校種ごとの課題

（３）改善の方向性
・AI時代に外国語を学ぶ本質的意義の再定義を踏まえた改善
・英語運用能力に関する社会全体の課題を踏まえた対応
・発信力の強化
・資質・能力の構造化等

２．目標及び見方・考え方のあり方

（１）目標のあり方
・外国語の目標のあり方
・英語の目標・高校の科目目標のあり方

（２）見方・考え方のあり方
・AI時代に外国語を学ぶ本質的意義を踏まえた見方・考え方

３．資質・能力の構造化のポイント
・英語の目標・高校の科目目標、内容
・言語活動、言語の使用場面、言語の働きの例
・「統合的な理解」「総合的な発揮」
・表形式のあり方

４．内容の改善のあり方

（１）内容の充実について
・段階的な指導・校種間接続
・高校の科目
・話題・活動
・科学的知見や学習方略の活用
・文化理解等
・AIを含むデジタル学習基盤の活用
・多様な外国語

（２）内容の精選について
・新出語彙の見直し
・CEFRを参照した話題・活動の見直し
・中学校の文法事項及び話題の見直し

５．学習・指導・評価の改善充実のあり方
・活動を通した指導
・柔軟な教育課程
・指導体制、環境整備
・学習評価

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性①

（1）現状の成果

校種共通の成果

- 現行学習指導要領では、小中高で一貫した目標を実現するため、国際的な基準であるCEFR（※）を参照し、小中の英語の目標・高校の科目目標（以下「領域別の目標」という）を５つの領域でCAN-DO形式で設定した。このことにより、「英語を使って何ができるようになるか」を意識した授業改善に一定の進捗がある。

  （※）欧州評議会が示す外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通言語参照枠

- 外国語の目標の柱書きに「言語活動を通した指導」が位置付けられたこともあり、外国語でコミュニケーションを行う活動を中心とした指導の必要性が学校現場に浸透してきている。

学校種ごとの成果

<小学校>

- 現行学習指導要領では、小学校３・４年から「外国語活動」を導入し、音声を中心に外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、５・６年から段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、総合的・系統的に指導するため、「外国語科」を導入した。
- R４学習指導要領実施状況調査によると、４技能全てにおいて相当数の児童が通過した問題が多く見られ、３・４年の外国語活動から音声に慣れ親しんできた積み重ねの一定の成果が表れている。
- 小学生への質問調査では、全学年で８割以上の児童が英語を学ぶ意欲が高く、中学生への質問調査では、「小学校での英語の授業が役に立った」と回答する割合が、前回改訂前よりも向上している。

<中学校>

- 現行学習指導要領では、対話的な言語活動を重視し、授業は英語で行うことを基本とした。
- 英語教育実施状況調査においてCEFR A１レベル相当以上を有する生徒の割合が増加（H25：32.2%→ R6：52.4%）するとともに、学習指導要領実施状況調査（H25→R5の比較）において同一問題の通過率が上がった問題が多く、改善が見られている。

<高等学校>

- 現行学習指導要領では、科目構成の見直しを行い、５領域を総合的に扱う科目群（英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ）とディベートやディスカッション等を通して発信力を高める科目群（論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）を設定した。
- 英語教育実施状況調査においてCEFR A２レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加している（H25：31.0%→R6：51.6%）。

（※）本取りまとめでは、基本的に英語以外も含む「外国語」のあり方について記載しているが、「英語」の目標・内容に関する記述や「英語」を対象とした調査結果に基づく記述等、「英語」に特化して記載している部分もある。

（※）便宜的に「知識及び技能」は「知・技」、「思考力、判断力、表現力等」は「思・判・表」と記載している。

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性②

（2）現状の課題

AI時代に外国語を学ぶ本質的意義

- AIの飛躍的な発展により手軽に高精度の翻訳が可能になる中、AIの活用が当たり前となる社会を前提として、外国語を学ぶ本質的意義を再定義する必要がある。英語が「好き」な児童生徒や将来英語を使いたいと考える生徒の割合の減少等、英語を学ぶ動機が弱まっているとの指摘もある。

語彙や文法事項に関する課題

- 現行学習指導要領において語彙数が大幅に増加した一方、指導すべき語彙の選定基準や具体的なリスト等が示されていないことから、各教科書で取り扱われている語彙にばらつきが生じている。
- 特に中学校では、教科書で扱う話題の高度化も相まって難易度の高い語彙が増えるとともに、中学校の新出語彙に加えて小学校の既習語彙を読み書きできるようにすることが求められていることから、指導や学習の負荷が上がっているとの指摘がある。
- 現行学習指導要領において中学校で指導する文法事項が増加するとともに、教科書に難易度が高い用法が含まれるなど、内容が過度に高度化しているとの指摘がある。

言語活動に関する課題

- 「言語活動」を通した指導の推進に一定の進捗が見られる一方、学習指導要領において活動に必要な要素が規定されていないことから、「言語活動」の解釈にばらつきが見られる。また、「言語活動」は学習指導要領全体の共通用語となっている一方、外国語における「言語活動」は、学習過程の中心となるものであり、他教科と比べて位置付けが重く、当該文言で表しきれない概念となっている。
- 「言語活動」と資質・能力との関係が十分に整理されておらず、「知・技」の育成を目的とする活動の位置付けが不明確等の理由から、「知・技」を育成するための段階的な指導の必要性や具体的な方法が分かりにくいとの指摘がある。

AIを含むデジタル学習基盤の活用

- 外国語学習向けのAIや汎用型AIの一層の発展が見込まれるが、AI活用が学習指導要領等に位置付けられていないことが、学校現場での活用格差を生み、外国語学習の「量」や「質」の差につながることが懸念される。

段階的な指導・校種間接続に関する課題

- 教師が他校種の指導内容・方法や、接続・連携のために重点を置いて指導すべき点を必ずしも理解・意識していないこと等、段階的な指導や学校種間の円滑な接続・連携が依然として課題となっている。

学校種ごとの課題

- **＜小学校＞** R４学習指導要領実施状況調査において、４技能全てで相当数の児童が通過した問題が多い一方で、一文を書き写す問題の正答率に学校間で差がある等、「書くこと」に課題が見られる。また、「読むこと」「書くこと」について、児童が「興味・関心をもちにくい」「理解しにくい」と回答した教師の割合が多く、教師が指導に難しさを感じている。
- **＜中学校＞** 経年変化分析調査（R3→R6の比較）のスコアが低下し、コロナ禍の影響も考えられるものの、この傾向に歯止めをかける必要がある。前回改訂における中学校で習得すべき文法事項や語彙の増加、話題や活動の高度化により、教科書の難易度が上がり、授業づくりが難しいとの指摘がある。
- **＜高等学校＞** R6学習指導要領実施状況調査等によると、「話すこと」「書くこと」の発信の領域において課題が見られる。特に英語での発信を中心とする科目であるはずの「論理・表現」において、５領域をバランスよく学ぶ「英語コミュニケーション」と比べて、授業で活動を通した英語使用の機会が十分に与えられておらず、科目の趣旨に沿った指導が十分行われていない実態がある。

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性③

（3）改善の方向性

AI時代に外国語を学ぶ本質的意義の再定義を踏まえた改善

- AI時代に外国語を学ぶ本質的意義について、自らの人生を舵取りし、多様な他者と協働できる資質・能力の育成の観点や、AI技術が今後も予想を超える速さで進歩することを踏まえ、AIに代替されるべきではない、人間が大切にすべき資質・能力の育成の観点から整理し、見方・考え方、目標及び内容などに反映させる。
- 本質的意義については、多様な外国語を学び、外国語によるコミュニケーションを図ることにより、異なる言語・文化への理解や母語・自国の文化のメタ認知を促す等の「言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと」と、外国語を介して多様な価値観を理解すること等により自分の考え・意見の形成・整理が促進されるとともに、多様な他者と直接意思疎通することが可能となる等の「自分の考えが磨かれて思考が深まるとともに、人間関係が豊かになること」の観点から整理。

補足イメージ①参照

英語運用能力に関する社会全体の課題を踏まえた対応

- 英語は日本語と比較した時に、文構造や音声の特徴など異なる点が多く、日本語話者にとって英語は習得に相当程度の時間を要するとの指摘もある中で、日本の英語の授業時間の限界や、英語を使う機会の少なさ、自分の意見を言語化することが苦手であることなどの社会全体の課題を踏まえ、学校教育で対応可能な方策の方向性を示す。

補足イメージ②参照

発信力の強化

<外国語でコミュニケーションを図る意欲等の育成>

- 外国語を学ぶ動機付けや発信力を高める観点から、児童生徒が外国語を使って伝えたいことや、やってみたいことについてイメージを持ち、自分のことや自分の意見、住んでいる地域や国のことについて伝え合ったり、外国語を介して多様な主張や価値観等に触れたりすることが重要。このため、話題や活動を見直すとともに、外国語でコミュニケーションを行う機会の充実を図る。

<外国語の運用能力の育成>

- 教師等が活動を通じてどのような資質・能力を育成するかをより意識しやすくなるよう、育成する資質・能力により、必要な活動や指導を整理する。
- 使用頻度の高い重要な語彙や文法等を、様々な場面等で繰り返し扱うことで、児童生徒がそれらを身に付け、活用することができるよう、指導の目安とする語彙や、文法の用法を精選・焦点化する。
- 外国語の効果的な学習方法については、日本がEFL環境（※）であるとの考えも踏まえながら、第二言語習得や認知心理学、学習科学の観点から様々な研究が進んできた。これらの科学的知見も踏まえ、授業改善や児童生徒の自己調整学習が促進されるようにする。

（※）English as a foreign language: 非英語圏で学ぶ外国語としての英語

- 高校の科目については、総合的な英語力の向上を図りつつ、更なる発信力の強化を図るため、科目趣旨を明確に示す名称に変更するとともに、当該趣旨に沿って内容の充実を図る。
- デジタル学習基盤の活用を学習指導要領に明記するとともに、その一つとして発達の段階に応じたAIの適切な活用についても明示的に位置付ける。

資質・能力の構造化等

- 現行の領域別の目標と資質・能力の関係を整理し、「内容」を学年段階の目安とともに表形式で示すことにより、指導内容の段階的な高度化や「思・判・表」の深まりを示す。
- 校種間の接続・連携の観点から、各学校段階で身に付けさせるべき事項と、前学校種との学びの接続・連携のために重点を置いて指導すべき事項をより具体的に示す。

2. 目標及び見方・考え方のあり方

（1）目標のあり方

外国語の目標のあり方

- 資質・能力の育成のために必要な学習過程を「コミュニケーション活動」（主に「思・判・表」を育成する活動）と「コミュニケーション活動を支える活動」（主に「知・技」を育成する活動）に再整理し、目標の柱書に位置付ける。
- 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」については、学校段階に応じた高まりを示しつつ、「知・技に関する統合的な理解」（以下「統合的な理解」という）や「思・判・表の総合的な発揮」（以下「総合的な発揮」という）、「内容」との役割分担を踏まえ、端的に記載する。
- 「学びに向かう力・人間性等」については、主要な要素や要素間の関係を分かりやすく示す観点から、以下の４つの要素に整理して記載する。
  - ➢ 外国語の学習で育みたい学びや生活に向かう態度
    - ① 外国語によるコミュニケーションなどへの興味・関心、伝えたい考え等の形成
    - ② 他者との対話・協働を通して考えを広げ・ 深めようとする態度
    - ③ 自己イメージを持ち、自らを振り返りながら学習を調整する態度
  - ➢ 外国語の学習で育みたい情意・感性
    - ④ 主体的に他者との相互理解を深めようとする心情

補足イメージ③～⑧参照

英語の目標・高校の科目目標のあり方

- 現行の目標は、資質・能力の３つの柱で分けずに、５つの領域別に示しているが、外国語の「目標」と同様、「知・技」「思・判・表」「学びに向かう力・人間性等」の３つの柱で示す（趣旨は次ページ参照）。

補足イメージ⑨参照

（2）見方・考え方のあり方

AI時代に外国語を学ぶ本質的意義を踏まえた見方・考え方

- AI時代に外国語を学ぶ本質的意義について、「言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと」「自分の考えが磨かれて思考が深まるとともに、人間関係が豊かになること」の観点から整理したことを踏まえ（前ページ参照）、外国語における見方・考え方を整理する。
- 教科等で扱う事象や対象は、「外国語及び外国語によるコミュニケーション」とする。
- 当該教科等の固有の物事を捉える視点は、相手との関係や文化的背景等を含め、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて相手に配慮する観点から、「文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して」とする。
- 当該教科等の固有の考え方や判断の仕方は、多様な他者の考えや言語、文化等を受容する観点から、「多様な他者の考えを受け止める」とともに、人間ならではのノンバーバル・コミュニケーションも含めて表現等を工夫して考えを発信し、多様な他者との相互理解を図る観点から、「表現等を工夫して自分の考えを伝え、相互理解を図ること」とする。
  - ➢ 外国語及び外国語によるコミュニケーションを
    文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、（見方）
    多様な他者の考えを受け止めるとともに、
    表現等を工夫して自分の考えを伝え、相互理解を図ること（考え方）

補足イメージ①・⑩参照

3. 資質・能力の構造化のポイント

英語の目標・高校の科目目標、内容

- 現行の領域別の目標は、資質・能力の３つの柱を総合的に育成する観点から、３つの柱で分けずに５つの領域別に示しているが、以下の課題がある。
  ①領域別の目標と「内容」の「思・判・表」の重複が生じていること
  ②「内容」の「思・判・表」が領域別の目標を大綱化したものとなっているため「思・判・表」の深まりの可視化が難しいこと
  ③学習評価はこれら３つの柱に対応する３観点で行う必要があるため煩雑であること
- 上記の課題を踏まえ、領域別の目標の要素を「内容」（主に「思・判・表」）に移行し、話題や活動の段階的な高度化、「思・判・表」の深まりの可視化を可能とするよう、学年段階の目安とともに示す。これに伴い、小中における学年ごとの目標の一律の作成義務をなくすとともに、英語の目標・高校の科目目標は、「内容」との重複を避け、外国語の「目標」と同様、「知・技」「思・判・表」「学びに向かう力・人間性等」の３つの柱で示す。
- 上記の整理を行うことにより、以下が期待される。
  - 「内容」の段階的な高度化、「思・判・表」の深まりを示すことが可能となり、教科書作成や授業づくりに資する
  - 領域別の目標の要素が「内容」に移ることで、「英語を使って何ができるようになるか」をよりきめ細く記載することが可能となる
  - 多くの教科と同様、「内容」を基に評価規準を作成することが可能となり、観点別の評価がしやすくなる

補足イメージ⑨参照（再掲）

言語活動、言語の使用場面、言語の働きの例

- 現行で「内容」に位置付けられている「言語活動」、「言語の使用場面」、「言語の働き」の例は、活動において取り扱う事項であることから、「指導計画の作成と内容の取扱い」に位置付け、活動の整理と分かりやすさの観点から、「コミュニケーション活動」、「コミュニケーションの場面」、「コミュニケーションの意図（仮称）」とする。
- 現行の外国語の「目標」で「言語の働き」が「知・技」に位置付けられている趣旨も踏まえ、「知・技」の指導でのこれらの扱い方を「指導計画の作成と内容の取扱い」で示す。

補足イメージ⑨参照（再掲）

「統合的な理解」「総合的な発揮」

- 外国語における「知・技」は、話や文章などの中で、音声や語彙、表現、文構造及び文法等を理解し（知識）、活用できる力（技能）、「思・判・表」は、外国語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じてコミュニケーションの目的を達成するために聞いたり、読んだり、話したり、書いたりできる力と整理。活動を通した指導（P９参照）により、「知・技」と「思・判・表」を一体的に育成し、「総合的な発揮」と「統合的な理解」へ深まることを示す。
  （※）上記は中学校の例
- 「総合的な発揮」については、外国語を学ぶ本質的意義の議論を踏まえ、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた情報や考えの整理・表現の工夫・互いの考えを伝え合うことの重要性を示しつつ、CEFRの分類を参照し、「理解する」・「表現する」・「伝え合う」に分けて記載する。このことにより、５領域をバランスよく育成する授業づくりを促す。
- 「統合的な理解」については、外国語で聞く・読む・話す・書くことに向けて、様々な音声や語彙、表現、文構造及び文法等を学ぶことで英語による理解や表現の質が高まることを理解している姿を端的に表す。このことにより、単に語彙や文法等を覚えるのではなく、知識をコミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、外国語を聞く・読む際に理解しやすくなったり、話す・書く際により自分が伝えたいことが表現できるようになるなど、理解や表現の質が高まることを実感できる授業づくりへの改善を促す。

表形式のあり方

- 外国語においては、「知・技」に対応した「思・判・表」が想定しにくく、「知・技」が全体として「思・判・表」の深まりを支えながら一体的に育まれていく構造であると考えられ、「並行」パターンで表形式化を行う。

補足イメージ⑨参照（再掲）

4. 内容の改善のあり方①

（1）内容の充実について

段階的な指導・校種間接続

- 小学校の外国語活動から外国語科、小学校から中学校の指導内容や難易度が円滑に接続するよう、小中における話題や活動、指導事項を段階的に高度化し、学年段階の目安とともに示す。
- 新たに学習した内容を活用できるようになるまでには時間を要することを踏まえ、前学校段階で学習したものを含む既習事項や話題等を発達の段階に応じて繰り返し扱うことの重要性を示す。また、以下の例のように、各学校段階で初期指導の重要性や身に付けさせるべき事項、学びの接続・連携のために重点を置いて指導すべき事項を「指導計画の作成と内容の取扱い」において具体的に示す。
  - 小学校では外国語活動（音声での慣れ親しみ）から、外国語科（「読むこと」「書くこと」を含む）に円滑に接続できるよう指導すること
  - 中学校の文法指導との接続の観点も踏まえ、小学校外国語科では日本語と英語の語順の違い等（文構造）の気付きを促すこと
  - 中１の初期段階では小学校の指導と関連させ、音声を中心とした活動を重視するとともに、３年間を通して発音と綴りとを関連付けて丁寧に指導したり、小学校で取り扱った話題や語句や表現などを発達の段階に応じて繰り返し扱うこと
  - 高校では入学初期に生徒の学習状況を適切に把握し、領域別あるいは領域統合の活動において、中学校における学習内容の習熟を図りつつ、中学校の既習事項を繰り返し活用しながら、「思・判・表」を発揮する活動を重視すること

補足イメージ⑪～⑯参照

高校の科目

- 「英語コミュニケーション」と「論理・表現」の各科目の趣旨を維持し、英語によるコミュニケーションを中核とする趣旨を端的に示しつつ、従来の「英語コミュニケーション」は５領域を総合的に扱う趣旨を明示するため「英語コミュニケーション（総合）」に、「論理・表現」は、Production（表現）と Interaction(やり取り)による発信力を一層強化する趣旨を明示するため「英語コミュニケーション（発信）」に見直す。併せて、各科目趣旨に沿った指導が行われるよう内容の充実を図る。
- 専門科目についても、専門学科の意義にふさわしいものになるよう、上記科目の改善の方向性を踏まえて必要な改善を行う。

補足イメージ⑯～⑱参照

話題・活動

- AI時代に外国語を学ぶ本質的意義の要素や外国語を学ぶ動機付けを高める観点等を踏まえ、取り扱う話題や活動の例示等を見直す。
  - 児童生徒が外国語によるコミュニケーションに興味・関心を持ち、外国語を使って伝えたいことややってみたいこと、そのために身に付けたい外国語の運用能力等についてイメージを持つことができるよう、AIや学校内外での交流機会を活用しつつ、自分が伝えたいことを伝える活動を強化する。
  - 「話すこと」や「書くこと」による「外化※」や多様な他者とのやり取りを中心とした発信力強化の観点から、自分のこと、日本のことに加え、自分の意見を言えるよう、話題や活動の充実を図るとともに、自分の住んでいる地域に関する話題や活動を明確に位置付ける。

（※）外化：書く・話すなどの活動を通じ、知識の理解や頭の中で思考したことなどを表現すること

補足イメージ⑲参照

科学的知見や学習方略の活用

- 英語力を高める学習方法が分からない高３生が６割との調査結果や大学入学後の英語力の伸びが少ないという指摘がある等、自主的な学習や学習の継続が課題となっている。
- 児童生徒が家庭学習を含め、自己調整学習の考え方に基づいて学習方略を活用できるよう、第二言語習得の研究や認知心理学、学習科学などの科学的知見も踏まえ、教師等の指導や学習者にとって参考となる動画や資料を提供する。その際、学校現場の負担軽減にも留意し、教師等の指導や自治体の教員研修等に活用しうることを念頭に作成する。

4. 内容の改善のあり方②

文化理解等

- AI時代に外国語を学ぶ本質的意義を踏まえ、以下の内容を充実させる。
  - 多様性の包摂や多文化共生に対する理解のために多様な文化を理解すること
  - 母語や自国の文化のメタ認知を促すために言語の違い等について理解すること
- 「海外から帰国した生徒や外国人の生徒の指導」に関し、帰国生徒や外国人生徒、外国につながる生徒の「外国語の能力などの特性を、本人の各教科等の学習に生かすことができるよう配慮することが大切である」旨は現行の総則の解説のみに示されているが、外国語の解説においても同様に示す。

（※）外国人児童生徒等が有する多言語・多文化の経験等を踏まえた指導上の留意事項について、具体的な文言は総則の内容を踏まえて検討。

補足イメージ⑳～㉒参照

AIを含むデジタル学習基盤の活用

- 外国語の学習指導要領においても、オンラインによる人との交流等を含むデジタル学習基盤の活用を図る旨を明記するとともに、指導の参考となる考え方や実践事例などを具体的に示す。
- 外国語教育においてAIを適切に活用することにより、外国語の学習過程の一層の充実と資質・能力の育成が図られ、発信力の強化も期待されることから、デジタル学習基盤の活用を学習指導要領に明記するにあたり、その一つとして発達の段階に応じたAIの適切な活用も明示的に位置付ける。
- 諸外国の例も参考としつつ、教師等や児童生徒による授業内外でのAIの効果的な活用のあり方について、国が参考となる考え方や留意点、動画や資料等を具体的に示すとともに、今後の情報技術の発展を踏まえ適宜更新を図る。

多様な外国語

- AI時代に外国語を学ぶ本質的意義として、多様な言語や文化を理解することの重要性が指摘されるとともに、グローバル化や我が国における言語・文化の多様化により、児童生徒が興味関心に応じて英語に加えて多様な外国語を学びたい潜在的なニーズも相当程度存在している可能性がある。
- 一方、英語以外の外国語の指導は、組織的な授業・教材の研究が難しいこと、地域によっては学校数が限られ、教育委員会等における研修が実施しにくいこと、学んでいる言語の使用機会や同じ言語を学ぶ生徒同士の交流機会等が限られていることなどが課題となっている。
- 上記の課題を踏まえ、以下を実施する。
  - 文部科学省で調査している各校の開設状況の公表と関係者間の共有
  - 各言語の専門機関や駐日外国公館、関係団体の協力を得ながら、以下についての可能性を検討
    - 教師の指導力向上を図る方策
    - 同じ言語を学ぶ生徒同士の交流を促進するための方策
    - オンラインにより多様な外国語の履修を可能とする講座の開設等

      （※）科目免除を認めた場合の振替科目等として、当該学校等の判断により、学校外学修（例：大学の授業の履修や各言語の専門機関等による英語以外の外国語の講座の履修、海外のサマースクール等）の履修も可能と考えられる。

      （詳細はP9参照）
  - 大学が公表している教材等、各学校における多様な外国語の学びの充実に役立つ資料の収集・公表

4. 内容の改善のあり方③

（2）内容の精選について

新出語彙の見直し

- 複数のコーパスを参照するなどして国で語彙選定のための基盤語彙リストを作成し、教科書発行者に対して、当該リストに掲載されている語を教科書で使用することを推奨する。
- 基盤語彙リストの作成とともに、語彙の難易度、使用頻度等に基づく重要度等を勘案し、指導すべき語彙数を精選も含めて見直す。

（※）・ 高校については、目的に応じて多様な到達水準が存在することから、教科書のレベルも様々であるため、教科書の多様性を担保する。また、小・中学校の教科書においても、難易度が過度に高まらないようにしつつ、引き続き多様な話題を取り扱うことができるよう配慮する

・ また、リストを必要に応じて更新できるよう継続的に調査研究を実施する

・ なお、入試や調査の作問に資するよう、各教科書の新出語彙リストは電子データとして提供されるべき

補足イメージ㉓参照

CEFRを参照した話題・活動の見直し

- 現行学習指導要領においては、各校種で育成する資質・能力の段階を示すため、CEFRを参照し、領域別の目標を設定、言語活動例を示しているが、改訂前の議論で想定されていた各校種のCEFRレベルに照らすとレベルが高いものが規定・例示されている場合もある。

（※）小学校では～A1程度、中学校ではA1～A2程度、高等学校ではA2～B1程度

- 今後、「内容」や「活動例」を示す際、CEFRを参照して適切な文言となるように留意し、CEFRの文言にそのまま照らすとレベルが高いと捉えられる可能性のある内容であっても、教師による足場かけを前提に示すことが有効な場合には、解説でその趣旨や留意点を示す。

（※）上記に伴い、今後の全国学力・学習状況調査においては、CEFRレベルを勘案しつつ、個別の資質・能力に基づいて作問する。

中学校の文法事項及び話題の見直し

<文法事項の見直し>

- 生徒が文法を理解し、それらを使って英語を理解でき、伝えたい内容を伝えられるよう、中学校の文法事項のうち使用頻度の高いもの等を本文で具体的に明示し、指導対象の焦点化、難易度の適正化を図る。

<話題の見直し>

- 各学校種で取り扱うべき話題の難易度を整理し、学年段階の目安を示すとともに、身近なものから段階的に抽象的なものを取り扱うようにする。
- 中学校における「社会的な話題」については、解説において外国語の学習として難易度が高いものが多く例示されているため、「身近な社会的な話題」とし、生徒が自分と関連付けて捉えられるように指導上の工夫ができるものを中心に例示する。

補足イメージ㉔参照

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方①

活動を通した指導

- 教師等が活動を通じてどのような資質・能力を育成するかを意識しやすくなるよう、育成する資質・能力により必要な活動を整理し、「コミュニケーション活動」（主に「思・判・表」を育成する活動）と「コミュニケーション活動を支える活動」（主に「知・技」を育成する活動）とする（主に「知・技」の育成を目的とする活動も明確に位置付ける）。
- 目標の柱書において、上記の活動を通して資質・能力を育成する旨を明記するとともに、本文において、各活動に必要な要素を具体的に示す。
- 「コミュニケーション活動」と「コミュニケーション活動を支える活動」を往還しながら、「知・技」と「思・判・表」を一体的に育成する指導のあり方を「指導計画の作成や内容の取扱い」や解説で示す。
- 「練習」という言葉から想起されるイメージが様々となっていること、当該文言を学習指導要領本文で用いている教科がごく一部であることも踏まえ、「練習」という文言は用いずに必要な活動を記載する。
- 「授業を生徒の理解に応じた英語で行うこと」を堅持しつつ、生徒の理解に応じた英語を使って指導する際に活用できる表現集（クラスルームイングリッシュ等）や動画等を提供する。併せて、教師による補助的な日本語使用や発達の段階に応じたAIの活用も含めた英語学習における児童生徒の母語使用について、参考となる考え方を解説で示す。

補足イメージ㉕～㉛参照

柔軟な教育課程

＜高校の必履修科目の履修免除＞

- 総則・評価特別部会において、外国語においては、国際的な基準であるCEFRとの対応関係が示されている外部試験が複数あること等から、必履修科目を選択科目等の履修に振り替える方が、資質・能力の育成の観点で大きく上回る成果が期待できることを要件に、外部試験を活用した免除・振替の制度運用を開始することが適当とされ、履修免除を認める際に必要な英語力や振替科目等について、解説等で具体的に定めることとされた。
- 上記免除の仕組みは、免除科目が目指す資質・能力を大きく上回る水準で身に付けている場合を念頭においていること、現行の高校の科目がおおむねCEFR A2～B1レベル相当の修得を念頭に設定されており、次期改訂においても当該レベルを大きく変更しないことを踏まえ、これを大きく上回る水準として、科目免除を認める際に必要な英語力は、B2レベル相当以上とする。
- また、科目免除を認めた場合の振替科目等については、免除の対象となる必履修科目（英語コミュニケーション（総合）Ⅰ（仮称））の時間に、発展的な学習や英語以外の外国語を学べる学校設定科目を設定し、当該科目を履修することが考えられる。さらに、各学校等の実態や必要性に応じて、実施のための諸条件を整えることが可能であれば、当該学校等の判断により、上位科目（英語コミュニケーション（総合）Ⅱ・Ⅲ（仮称））や学校外学修（例：大学の授業の履修や各言語の専門機関等による英語以外の外国語の講座の履修、海外のサマースクール等）の履修も可能と考えられる。

＜小中における柔軟な教育課程＞

- 現行の教育課程特例校制度においては、令和７年４月時点の1,915校のうち、1,483校が外国語に関する内容となっている。今後、本制度が調整授業時数制度に統合されることにより、調整授業時数制度を活用した「外国語」に関する取組が一層充実する可能性を踏まえ、取組の質確保のため、現行の教育課程特例校制度における参照可能な実践事例を、積極的に教育委員会等に提供する。

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方②

指導体制、環境整備

<AI時代の教師等の役割>

- AI時代の教師等の役割については、授業デザイン、児童生徒の学ぶ意欲の向上、自律的な学習者の育成に向けた学び方の指導等がより重要になる。

<教師等の資質向上のための方策とALT等との連携のあり方>

- 上記のAI時代の教師等の役割やAI時代だからこそ人間同士のリアルなコミュニケーションが重要になることを踏まえ、教師の留学等の多様な経験の奨励、ALT等との効果的な連携に加え、以下の取組を実施する。

①教員養成

- 教員免許制度の見直しを踏まえた外国語（英語）コアカリキュラムの改善においては、今回の改訂において重視している点を反映させ、特に、第二言語習得の研究や認知心理学、学習科学等の科学的知見や、学習方略に関する指導方法等について学ぶことができるようにする。
- 国が指導において参考となる動画や資料を作成する際、教職課程において活用されることも念頭に作成する。
- 英語資格・検定試験団体より提供いただいている、教師や教職課程の学生を対象として受験料の減額等を行う特別受験制度について、学生による活用が進むよう一層周知する。

②教員研修

- 今回改訂において重視している点が教師等に一層伝わり、英語力・指導力の向上や継続的な授業改善が図られるよう、文部科学省において全国の教師等に向けた大規模なオンライン研修を実施する。
- 国が指導において参考となる動画や資料を作成する際に、自治体の教員研修等においてそのまま活用しうることも念頭に作成する。特に、小学校を対象としたものについては、学級担任や専科教員それぞれのニーズに応じたものとなるよう、十分に配慮する。

③ALT等との連携

- ALT等との効果的な連携のあり方について、参考となる動画や資料を提供する。

<外国語を使う機会の充実のあり方>

- AI時代に外国語を学ぶ動機付けを高める機会を授業内外で多層的に充実する観点から、先行事例の成果を共有し、各地方における取組を積極的に推進する。
- デジタル学習基盤の活用を学習指導要領に明記するにあたり、その一つとしてAIの適切な活用も明示的に位置付けることにより、外国語を使う機会の増加を図る（再掲）。

学習評価

- 総則・評価特別部会において、学習評価のプロセスを再整理する方向性が示され、現行では各学校において、①内容のまとまりごとの評価規準、②単元の目標、③単元の評価規準を作成することとしているところ、以下のとおり改善が予定されている。
  - 「内容のまとまりごとの評価規準例」を国が示し、各学校による作成は不要とする
  - 各学校が作成する単元の目標はそのまま単元の評価規準となるようにする
- 外国語の特質を踏まえれば、引き続き５つの領域で評価することが重要であり、今回の構造化において、領域別の目標の要素を「内容」に移行して整理したことを踏まえ、今後、国が評価の参考資料で「内容のまとまりごとの評価規準例」を示す際の「内容のまとまり」は、「内容」に示している５つの領域とする方向で検討する。
- また、各学校が単元の目標（評価規準）を作成する際にも、「外国語の目標」「英語の目標」（高校の場合は科目の目標）を踏まえつつ、「内容」を基に作成する方向で検討する。

（※）現行では領域別の目標が資質・能力の３つの柱で整理されておらず、また、「内容」が領域別に示されていないことにより、評価のプロセスがより煩雑になっているが、上記の構造化によりその点も改善されると考えられる。

- 各学校の定期テストやパフォーマンステストに活用できるよう、MEXCBTにCEFRを参照した問題を充実させるとともに、AIを活用したパフォーマンステストツールの可能性を検討する。

補足イメージ㉜～㉞ 参照

補足イメージ①

AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」の再整理（Ver. 4）

－自らの人生を舵取りできる、多様な他者と協働できる資質・能力への貢献の観点から－

1．言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと

● 異なる言語・文化への理解を促す

- 自らと異なる他者の言語や文化等との接触・理解・共感・受容
- 言語習得の困難の経験による外国人や日本語学習者の立場・心情の理解
  - ➡ 以上が相まって、多様な主張や価値観への寛容性を生み、多様性の包摂や多文化共生に対する理解を促す可能性

● 母語や自国の文化のメタ認知を促す

- 外国語と対比されることにより、母語の特徴や良さの認知に繋がる
- 外国の文化と対比されることにより、自国の文化への理解が深まる
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される

● コミュニケーションへの深い理解を促す

- 言語や文化のメタ認知やコミュニケーション等の経験を通じた相手意識の向上
  ・相手の言葉や意図の受け止め方（聞く・読む）
  ・相手や相手の文化への配慮、コミュニケーションの目的、場面や状況等に応じた表現、自分の言葉の分かりやすさ（「やさしい日本語」にも繋がる）（話す・書く）
- 伝わらないもどかしさや失敗を乗り越えるレジリエンスや伝わることによる自己肯定感等の高まり、それらを行き来する経験
- ノンバーバル・コミュニケーションの重要性の理解や表現方法の工夫
  （アイコンタクト、間の取り方、身振り・手振り 等）
  - ➡ 以上が相まって、翻訳ツール等によるやり取りを超えた、生身の身体を有する人間同士のリアルなコミュニケーションへの関心・意欲を促す可能性

2．自分の考えが磨かれて思考が深まるとともに、人間関係が豊かになること

● 外国語を介して、自分の考え・意見の形成・整理が促進される

- 外国語を通じて流通する多様な主張や価値観、感性への接触・受容
- 外国語で対話・協働するために、普段から自分の考え・意見を整理したり、外国語ならではの論理展開で伝える意識が向上する
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される（再掲）
  - ➡ アウトプットを意識した効果的インプットや論理的思考力の伸長を促す可能性

● 人間関係の質・量が豊かになり、多面的視野に繋がる

- 世界中の様々な人々と直接つながり、信頼関係の構築が可能となる
- 人間同士のリアルなコミュニケーションにより、翻訳やAIを介する場合と比べて得られる情報が格段に広がり、多面的視野に繋がる
- 異なる言語でのコミュニケーションを通じて新たな自分を発見できたり、より広い視野から自分の好き・得意を考えたり、複言語・複文化の強みを生かして将来の選択肢が広がる可能性も

※現在のAI技術を前提とした場合ではあるが、AIにより手軽に翻訳・通訳が可能となる中であっても、出力の正確性・適切性を批判的に検討したり、ツールの力も使いつつも、リアルなコミュニケーションを行ったりするためには相応の英語力が必要という視点や、外国語によるコミュニケーションのためにAI技術を効果的に活用する力が必要という視点もある

※これらは外国語を学校教育で必修とすることの意義を卒業後も継続的に学習した場合も想定しながら整理したものであり、これらの全てが、全ての児童生徒において、初等中等教育の過程で高いレベルで発現すると考えているものではない

※AI技術が今後も予想を超える速さで進歩することを踏まえると、AIに代替されるべきではない、人間に残したい部分は何かを重視する必要（下線部分）

よりよい社会
（社会のウェルビーイング）

- 多様性の包摂、国内外の多様な他者との共生・共創
- グローバルな視点・情報を駆使した価値創造・課題解決
- 持続可能な民主主義・平和な社会の構築

幸福な人生
（個人のウェルビーイング）

- 思考の多様性・柔軟性、価値観の再構築
- 国内外の多様な他者と直に意思疎通できる安心感・自信、豊かな人間関係
- 言葉の壁や国境を越えて自らの人生を舵取り（進学・留学・就職）

補足イメージ②

英語運用能力に関する社会全体の課題と学校教育における対応の方向（Ver. 3）

10年も習ったのに英語が話せない…

社会の期待・認識

ギャップを少しでも埋めるためにできることは？

学校で改善できること

コミュニケーション重視の授業改善を行ってきているが…

ギャップが生まれる背景

授業時間の制約

① 必要な学習時間は到達したい水準で異なるものの、学校教育だけでは時間に限界

- 英語話者が日本語の一般的な専門能力を身に付けるために必要な授業時間数は2,200時間※1
- 一方、日本の小中高の外国語の授業時間は600～1,000時間程度

② 授業時間が限られているのに、優先的に学ぶべき語彙が整理されていない

- 各校種の語彙数は目安があるのみ（小:600～700、中:1,600～1,800、高:1,800～2,500）で、中学校の教科書では語彙選定にばらつき

卒業後の学習状況

③ 学習の継続につながる目的意識や学習方略が十分ではなく、高卒後の伸びが少ない

- 高3のうち、「英語力を高める学習方法が分からない」は6割
- 大学生の英語運用能力（自己評価）は1年生が一番高いというデータも

社会環境・社会の認識

④ 英語を頻繁に使わざるを得ない環境がなく、社会全体で切迫感や学習動機が弱い

- 学校で学んだことを学校外で使う機会はほとんどない社会的環境が言語習得の観点で不利との共通認識が必要

⑤ 「英語が話せない」原因は、「伝える内容が十分整理されていない」等の場合も

- 自分の意見が母語で十分言語化されていない
- 国際交流で必須となる自分の国や地域に関するインプットが少ない

学校教育での対応の方向性（案）

① AI等のデジタル学習基盤を活用し、授業内外における学びの量と質の充実を図る

- 家庭学習との効果的な連携による発話時間等の確保
- AIの活用により、恥ずかしがらずに話すこと等の練習量を大幅に増加

② 語彙の難易度（CEFRレベル等）も勘案し、基盤語彙リストを作成

※最も頻度の高い3,000語※2が一般的なテキストの約95%を占める と言われており、20,000語を学んでも、カバー率は約99%。
日常会話に必要な語彙は721語というデータも※3

③ 自律的学習者を育てる方向で、授業改善を図る

- 科学的知見に基づく学習方略指導（第二言語習得理論、認知心理学、学習科学）
- 目的意識の涵養（英語を使う自己イメージを持たせる活動）
- AIの活用や家庭学習と連携した授業デザインの推進

④ 英語を学ぶ動機付けを高める機会を授業内外で多層的に充実する

- 英語キャンプ、英語での探究、海外校との交流、海外留学、ALT等の配置拡充
- 先行事例の成果を共有し、各地方における取組を推進
- AIの活用により、恥ずかしがらずに話すこと等の練習量を大幅に増加

⑤ 英語で伝えたい内容を整理・発信する活動の充実

- トピックの改善（自分が本当に伝えたいこと、自分の国や地域のことを重視）
- AIで自分が言いたいこと（母語）を英語にする活動の強化
- 教育課程全体で自分の意見を根拠に基づいて説明する活動を強化

※ 1 U.S. Department of STATE, FOREIGN SERVICE INSTITUTEのHP（Foreign Language Training - United States Department of State）

※ 2 3,000語はワード・ファミリー（word families）という単位であり、ある英単語の活用形や派生形を含めて、「１語」と数える。
例：includeのワードファミリーには、その活用形であるincludes、included、including や、派生形であるinclusive、inclusion などが含まれる。
（出典）中田達也. (2023). 最新の第二言語習得研究に基づく 究極の英語学習法. KADOKAWA. P91-96

※3 「The New General Service List – Spoken 1,2」 New General Service List Project

補足イメージ③

目標における柱書のイメージ（Ver.2）

※下線：当該学校種の前の学校種等との相違点

- 学校種の**段階的な高度化は３つの資質・能力の目標において具体的に示す**こととし、**柱書においては、**小学校の外国語活動と小中高の外国語科との違いや各校種の**共通点と相違点を踏まえて端的に記載。**
- **学習過程の書きぶり**については、**従来の「言語活動」を「コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動など」と整理**したことを踏まえて修正。

現状

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(参考) ●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

改善イメージ

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。	

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

補足イメージ④

目標における「知識及び技能」のイメージ（Ver.４）

※下線：当該学校種の前の学校種等との相違点　※赤字：現状と改善イメージとの相違点

- 端的に記載する観点から、各言語材料の記載は「外国語の特徴やきまり」とするとともに、領域に関する記述は「目標」からは省略。
- 小・外国語：「読むこと」「書くこと」は外国語活動で取り扱っていないことから、まず慣れ親しんだ上で身に付けるというプロセスが重要であり、この点は引き続き明示。日本語と外国語との違いに気付いた上で理解するというプロセスについては「内容」で明示し、端的に記載する観点から「目標」からは省略。
- 高：「目的や場面、状況などに応じて」については「適切に」を補足するものであるため、端的に記載する観点から「目標」からは省略。

現状

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

改善イメージ

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	外国語の特徴やきまりを理解するとともに、読むこと、書くことにおいて慣れ親しみ、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	外国語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	外国語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

補足イメージ⑤

目標における「思考力、判断力、表現力等」のイメージ（Ver.3）

※下線：当該学校種の前の学校種等との相違点　※赤字：現状と改善イメージとの相違点

- 小・外国語活動：話題の整理を踏まえ修正。
- 小・外国語：話題の整理を踏まえ修正。「推測しながら」「語順を意識しながら」は「内容の取扱い」で明示し、端的に記載する観点から「目標」からは省略。
- 中高：話題について、「日常的な話題」や「社会的な話題」は「内容」で明示すること、また、「身近な社会的な話題」を位置付けることから、「目標」では「様々な話題」、「幅広い話題」とする。
- 高：端的に表すため「概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図など」を省略。

現状

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

改善イメージ

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
ごく身近な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして、伝え合うことができる基礎的な力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

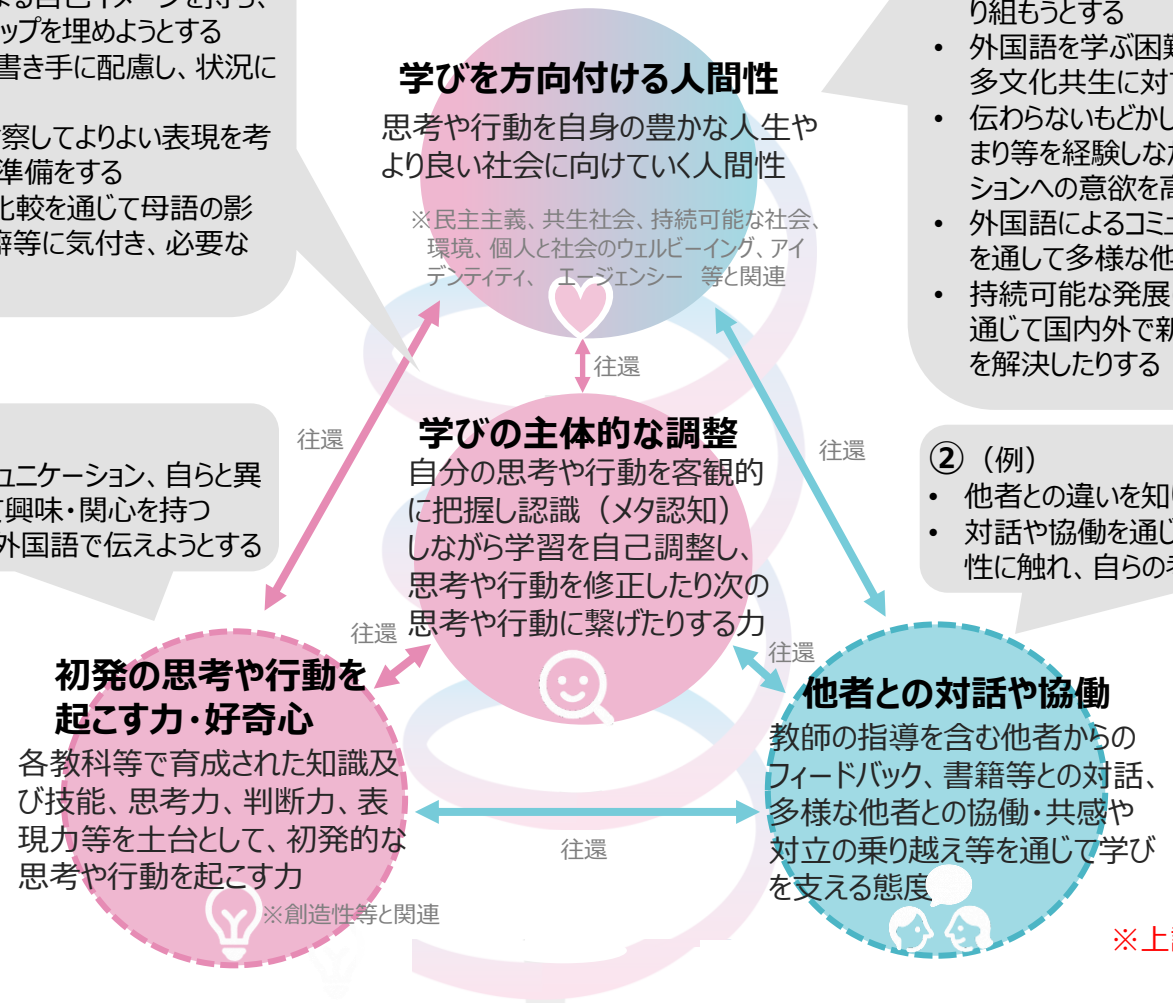
補足イメージ⑥

外国語における「学びに向かう力・人間性等」の４要素の例（Ver.2）

変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む

③（例）
- 外国語を身に付けることによる自己イメージを持ち、自己イメージと現実とのギャップを埋めようとする
- 聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮し、状況に応じて修正する
- 自らのコミュニケーションを省察してよりよい表現を考える等、次の機会に向けて準備をする
- 外国語や外国の文化との比較を通じて母語の影響を受けた表現や思考の癖等に気付き、必要な修正につなげる

④（例）
- 目的意識をもって外国語の学習に継続して取り組もうとする
- 外国語を学ぶ困難の経験を多様性の包摂や多文化共生に対する理解につなげる
- 伝わらないもどかしさや伝わる自己肯定感の高まり等を経験しながら人間同士のコミュニケーションへの意欲を高める
- 外国語によるコミュニケーションを継続し、対話を通して多様な他者と信頼関係を構築する
- 持続可能な発展に向けて、外国語の使用を通じて国内外で新たな価値を創造したり課題を解決したりする



①（例）
- 外国語や外国語によるコミュニケーション、自らと異なる他者の文化等に対して興味・関心を持つ
- 自分の考え・意見を持ち、外国語で伝えようとする

②（例）
- 他者との違いを知り、相互理解を深める
- 対話や協働を通じて、多様な主張や価値観、感性に触れ、自らの考えを広げたり深めたりする

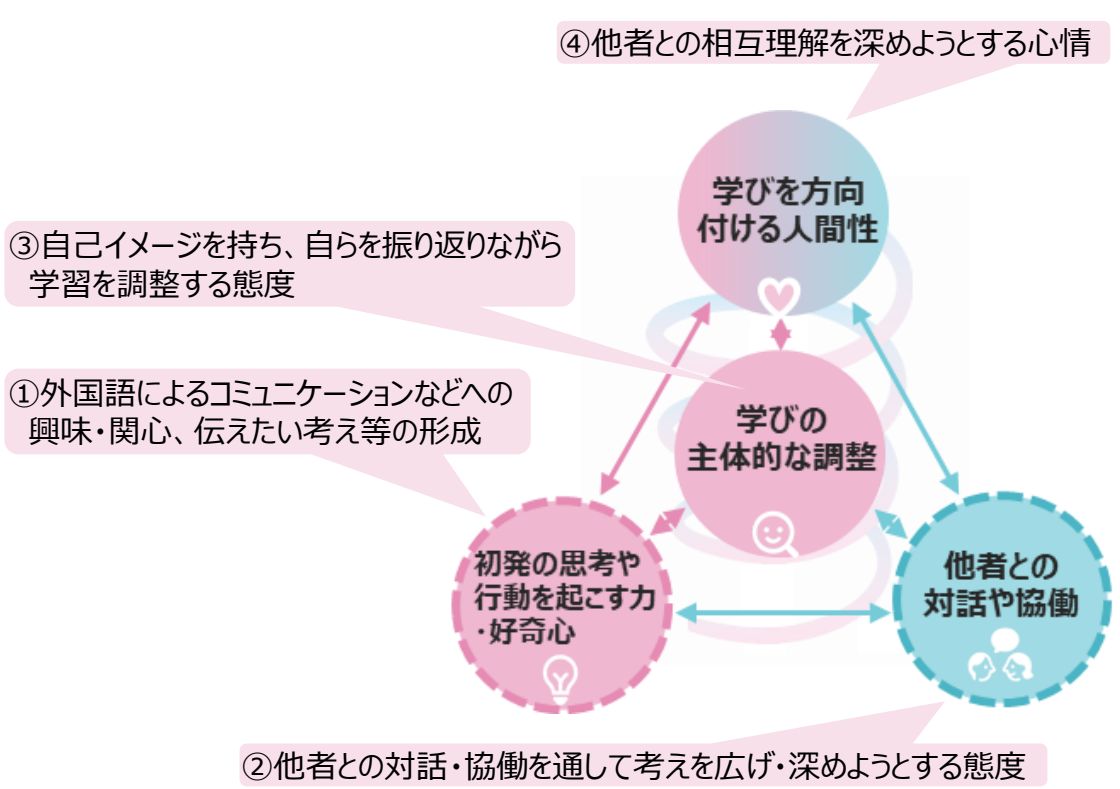
学びに向かう力、人間性の高まり

※上記例は告示にあたり別途検討

※「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」と、「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」との往還を通じ、粘り強く継続的に思考・行動する経験が繰り返され、「学びに向かう力・人間性等」が育まれる

補足イメージ⑦

外国語における「学びに向かう力・人間性等」の整理（Ver.2）



２．当該教科等の学習で育みたい情意・感性

④　主体的に他者との相互理解を深めようとする心情

１．当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

①　外国語によるコミュニケーションなどへの興味・関心、伝えたい考え等の形成

②　他者との対話・協働を通して考えを広げ・ 深めようとする態度

③　自己イメージを持ち、自らを振り返りながら学習を調整する態度

１と２を踏まえ、

【中学校外国語でのイメージ】
外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち（①）、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに（②）、自らの学習を調整して（③）、他者との相互理解を深めようとする態度（④）を養う。

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討。解説は前ページや「AI時代に外国語を学ぶ本質的意義」の整理も踏まえて作成

補足イメージ⑧

目標における「学びに向かう力・人間性等」のイメージ

※下線：当該学校種の前の学校種等との相違点　※赤字：現状と改善イメージとの相違点

現状

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

改善イメージ

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるとともに、相手を理解しようとする態度を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を図ろうとする態度を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

構造化のイメージ（中学校の例）（Ver.2）

補足イメージ⑨

現状

外国語の目標

知識及び技能 / 思考力、判断力、表現力等 / 学びに向かう力・人間性等

英語の目標（領域別目標）

聞くこと / 読むこと / 話すこと[やり取り] / 話すこと[発表] / 書くこと

内容

知識及び技能

音声/符号/語、連語及び慣用表現/文、文構造及び文法事項

思考力・判断力・表現力等

言語活動及び言語の働きに関する事項

言語活動(例)

聞くこと / 読むこと / 話すこと[やり取り] / 話すこと[発表] / 書くこと

言語の使用場面(例)

言語の働き(例)

指導計画の作成と内容の取扱い

言語材料の段階的な指導、指導内容や指導方法の工夫　など

改善イメージ

外国語の目標

知識及び技能 / 思考力、判断力、表現力等 / 学びに向かう力・人間性等

英語の目標

英語の目標は３つの柱で整理

知識及び技能 / 思考力、判断力、表現力等 / 学びに向かう力・人間性等

領域別目標の要素を「内容」に位置付け、段階的な高度化と資質・能力の深まりを示す

内容

CEFRの分類も参照し３つに整理

思考力・判断力・表現力等

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
（理解する）（表現する）（伝え合う）

聞くこと / 読むこと / 話すこと[やり取り] / 話すこと[発表] / 書くこと

「並行」パターンで示す

知識及び技能

知識及び技能に関する統合的な理解

音声/符号/語、連語及び慣用表現/文、文構造及び文法事項　など

※技能は5領域と関連付けて示す

指導計画の作成と内容の取扱い

「内容」は資質・能力に限定し、従来の「言語活動の例」等は「指導計画の作成と内容の取扱い」へ

コミュニケーション活動（例）

聞くこと / 読むこと / 話すこと[やり取り] / 話すこと[発表] / 書くこと

コミュニケーションの場面(例) ※コミュニケーション活動で取り上げる

コミュニケーションの意図（仮称）(例) ※コミュニケーション活動で取り上げる

「コミュニケーションの意図（仮称）」の扱い方を「指導計画の作成と内容の取扱い」で明示

補足イメージ⑩

外国語の新たな「見方・考え方」のイメージ（案）（Ver.３）

現状

見方 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、
考え方 社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、
コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること（101字）

（参考：解説）

見方 外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉えるとは、**外国語で他者とコミュニケーションを行うには、社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすることが重要**であることを示している。

考え方 また、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することとは、多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した概念（知識）を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりすることであり、「外国語で表現し伝え合う」ためには、適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理するとともに、**自分の考えなどを形成、再構築することが重要**であることを示している。
外国語によるコミュニケーションの一連の過程を通して、このような「見方・考え方」を働かせながら、自分の思いや考えを表現することなどを通じて、生徒の発達の段階に応じて「見方・考え方」を豊かにすることが重要である。この「見方・考え方」を確かで豊かなものとすることで、学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を主体的に結び付ける学びが実現され、学校で学ぶ内容が、生きて働く力として育まれることになる。さらに、こうした学びの過程が外国語教育の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながる。その鍵となるものが、教科等の特質に応じた「見方・考え方」である。

改善イメージ

外国語及び外国語によるコミュニケーションを
見方 **文化の違いや社会及び相手との関わり**に着目して捉え、
考え方 **多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考えを伝え、相互理解を図る**こと（91字）

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討。解説は「AI時代に外国語を学ぶ本質的な意義」の整理も踏まえて作成

補足イメージ⑪

小学校外国語活動と外国語の接続

現状

- 現行学習指導要領では、小学校３・４年から「外国語活動」を導入し、音声を中心に外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、５・６年から段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、総合的・系統的に指導するため、「外国語科」を導入
- Ｒ４学習指導要領実施状況調査によると、４技能全てで相当数の児童が通過した問題が多く、3･4年での外国語活動から音声に慣れ親しんできた積み重ねの成果が一定程度表れている
- 一方、以下のような課題も顕在化
  - ①「書くこと」に課題（例：一文を書き写す問題の正答率が学校間で約30～90%の差。教師オンライン質問調査では「児童が興味・関心をもちやすい」、「児童が理解しやすい」と回答した割合がいずれも低い項目は「書くこと」に集中）
  - ②「読むこと」に課題（例：教師オンライン質問調査では児童が「興味・関心をもちにくい」、「理解しにくい」と回答した割合が他項目に比べて高い）
  - ③ 外国語活動については、国が教材（Let's Try！）を作成し、配布しているが、一部の内容について伝え合う目的や必然性のある場面が設定しにくい単元があるとの指摘

- こうした中、英語を学ぶ意欲が、学年が上がるごとに下がる傾向も出ており、外国語活動（文字の音声に慣れ親しませる段階）から、外国語科（「読むこと」「書くこと」の活動）に円滑に接続できていないとの指摘
- 小学校外国語科では、読むこと、書くことに慣れ親しんだ上で、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けることを目指しているが、基礎的な技能の習得に課題が生じている可能性

改善イメージ

- 外国語活動教材Let's Try！を以下の観点から見直す
  - より身近で興味を持ち、楽しく活動できる内容を充実
  - ５・６年の外国語科につながるよう、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識した活動を児童の発達の段階に応じて段階的に取り扱う
- 小学校段階で身に付けるべき文字については以下の観点から見直す
  - 国語科のローマ字の学習、総合的な学習の時間に付加する「情報の領域（仮称）」のタイピングなどの情報活用能力の育成に資する学習活動との関連を図りながら、外国語活動においても文字に慣れ親しむ活動を大切にする
  - 外国語活動（音声での慣れ親しみ）から、外国語科（「読むこと」「書くこと」を含む）に円滑に接続できるよう、初期指導の重要性や留意事項を示す

補足イメージ⑫

小学校・中学校における接続・連携

現状

- 前回改訂では、「小学校の外国語活動で音声中心で学んだことが、中学校の段階で文字への学習に円滑に接続されていない」「英語の発音と綴りの関係、文構造の学習に課題がある」という小中接続の課題も踏まえ、小学校５・６年に「外国語科」を導入

【学習指導要領実施状況調査が示す実施状況】

① 小学生への質問調査では、英語を学ぶ意欲は全学年で８割以上
② 中学生への質問調査では、「小学校での英語の授業が役に立った」と回答する割合は改訂前よりも向上
③ 中1の英語が好きではない理由は、「文法が難しい」「単語のつづりや文字を覚えるのが難しい」「英語の文を書くのが難しい」が上位
④ 中学校教師への質問調査では、小学校での指導方法・内容を把握できていない教師が多数

- 小学校から中学校への接続（文字を覚えたり、文構造について理解したり、簡単な語句や基本的な表現を読んだり書いたりする指導から、綴りを覚えたり、文を書く指導や文法指導）が引き続き課題。接続に当たって重点的に指導することを教師が必ずしも理解・意識できていない

改善イメージ

（１）指導内容の段階的な示し方

- 小・中学校における指導内容が、領域ごとに段階的に高度化するように指導事項を示し、構造化を図る
- その際、英語の領域別の目標の要素を「内容」に位置付け、話題や活動の段階的な高度化を学年段階の目安とともにきめ細かく示す
- 本改訂においては、指導事項の精選や学年区分の柔軟化が方向性として示されていることを踏まえ、指導事項の増加につながらないよう留意するとともに、学年別に明確に指導事項を分けるのではなく、「〇学年相当」など、柔軟性を残しつつ目安を示す
- 段階付けするポイントとしては以下が考えられる
  - ✓ 話題：取り扱う話題を段階的に高度化する
  - ✓ 活動（特に「読むこと」「書くこと」）：
    - 小学校における「読むこと」「書くこと」の指導の段階をきめ細かく示す
    - 中学校の初期段階において、音声を中心とした活動を重視するとともに、小学校で取り扱った話題や言語材料（語句や表現など）を繰り返し扱うことを示す

※今後、語彙の難易度を勘案して基盤語彙リストを作成予定

（次ページに続く）

補足イメージ⑬

小学校・中学校における接続・連携

改善イメージ（前ページからの続き）

（２）重点を置いて指導すべき点の明確化

- 各学校段階で身に付けさせるべき事項と、前学校種からの学びの接続のために重点を置いて指導すべき事項を、より具体的に示す
- 新たに学習した内容を活用できるようになるまでには相当程度の時間を要することを踏まえ、前学校段階で学習したものを含む既習事項や話題等を発達の段階に応じて繰り返し扱うことの重要性を示す
- その際、「コミュニケーション活動」において活用することによって、理解を深めることとする

【具体的な検討事項】

✓ 小学校（中学校への接続のための留意事項）：

- 中学校の文法指導につなげるため、日本語と英語の語順の違い等（文構造）の気付きを促すこと
- 音声と文字の関係に慣れ親しみ、簡単な語句や基本的な表現を読んだり書いたりできるようにすること

✓ 中学校（小学校からの接続のための留意事項）：

- 中１の初期段階
  - 小学校の指導と関連させて音声を中心に活動を行い、発音と綴りとを関連付けて丁寧に指導すること
  - 小学校では音声に十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、例となる文を参照しながら書いたりすることまでにとどめていることを踏まえ、文構造（語順）を意識しながら書くよう丁寧に指導すること
- ３年間を通じて
  - 発音と綴りとを関連付けて丁寧に指導すること
  - 小学校における指導との接続に留意し、音声面を大切にしながら「読むこと」「書くこと」につなげること
    「読むこと」：簡単なものから段階的に語句や英文を読んで意味を理解すること
    「書くこと」：語句や英文を「読むこと」から、「書くこと」につなげること

（３）学年ごとの目標のあり方

- 指導内容を段階的に示すことに伴い、現行の学習指導要領において各学校に策定が義務付けられている学年ごとの目標の役割を、学習指導要領が担うこととなる。このため、学年ごとの目標の一律の作成義務は無くし、各学校の状況や校種間の接続・連携の観点等から必要な場合に、任意で作成する位置付けとする

「話題」の段階的な示し方のイメージ

※小中連携の観点から考えられる段階付けを一部イメージ化したもの。

小学校

ポイント：「読むこと」「書くこと」の話題を段階的に示す

外国語活動

※活動との組み合わせで話題の順序が前後することはありうる

聞くこと

相手のことや身の回りの物
（例）友達のこと、好きな物、欲しい物

ごく身近な事柄
（例）日常生活（時刻、曜日、場所）

（音声での慣れ親しみ）

話すこと［やり取り］

基本的なやり取りに関する事柄
（例）挨拶、感謝、簡単な指示、依頼

ごく身近な事柄
（例）日常生活（時刻、曜日、場所）

自分のことや身の回りの物
（例）好きな物、欲しい物

相手のこと
（例）好きな物、欲しい物

話すこと［発表］

自分のことや身の回りの物
（例）名前、好きな物、欲しい物

ごく身近な事柄
（例）日常生活（時刻、曜日、場所）

（音声での慣れ親しみ）

外国語

聞くこと

相手のこと
（例）友達や家族のこと、誕生日、好きな物、趣味、得意なこと

身近な事柄
（例）学校生活、地域

読むこと　話題を段階的に示す

自分のことや相手のこと

身近な事柄

話すこと［やり取り］

基本的なやり取りに関する事柄
（例）挨拶、指示、依頼

自分のことや相手のこと
（例）友達や家族のこと、誕生日、好きな物、趣味、得意なこと

身近な事柄
（例）学校生活、地域

話すこと［発表］

自分のことや相手のこと
（例）友達や家族のこと、誕生日、好きな物、趣味、得意なこと

身近な事柄
（例）学校生活、地域

書くこと　話題を段階的に示す

自分のことや相手のこと

身近な事柄

中学校

ポイント：「社会的な話題」から「身近な社会的な話題」へ変更
中１の初期段階で小学校で扱った話題を繰り返し扱う

聞くこと・読むこと

【中1の初期段階】
小学校で扱った話題を繰り返し扱う

日常的な話題

変更

身近な社会的な話題

話すこと・書くこと

【中1の初期段階】
小学校で扱った話題を繰り返し扱う

日常的な話題
身近な話題
- ごく身近な事柄（自分のこと、相手と共通して関心をもっていること）
- 身近な事柄（身の回りのこと、相手と共通してもっている話題）（例）学校、地域

（自分にとって）興味関心のある話題
（自分にとって興味関心があるが、相手が必ずしも興味関心をもっているとは限らない）

変更　**身近な社会的な話題**
※聞いたり読んだりしたことを基に、書いたりすることを含む

3学年相当　4学年相当　5学年相当　6学年相当　1学年相当　2学年相当　3学年相当

「読むこと」「書くこと」の段階的な示し方のイメージ

補足イメージ⑮

※小学校から中学校への接続（文字を覚えたり、文構造について理解したり、簡単な語句や基本的な表現を読んだり書いたりする指導から、綴りを覚えたり、文を書く指導や文法指導）が引き続き課題である点も踏まえ、小中連携の観点から考えられる段階付けを一部イメージ化したもの。

小学校

外国語活動

聞くこと

文字の読み方が発音されるのを聞いて、識別する

外国語

読むこと

文字の形を認識し、名称の読み方を発音することができる

音声と文字の関係に慣れ親しんだり、音声と語句や表現を結びつけたりする

簡単な語句や基本的な表現を読んで意味を捉える

簡単な語句や基本的な表現から具体的な情報を読み取る

書くこと

文字を一文字ずつ丁寧に書く

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写す

自分の考えや気持ちなどを表す語句を選んで書き写す

例となる語句や表現を参考に、自分の考えや気持ちなどを表す語句や表現を書く

中学校

読むこと・書くこと

【中1の初期段階】
・小学校の指導と関連させて音声を中心に活動を行い、発音と綴りとを関連付けて丁寧に指導する
・文構造（語順）を意識しながら書くよう、丁寧な指導を行う
※徐々に自分で考えて「書くこと」ができるようにする

【３年間を通じて】
・発音と綴りとを関連付けて丁寧に指導を行う
・小学校における指導との接続に留意し、音声面を大切にしながら「読むこと」「書くこと」につなげる
▶簡単なものから段階的に語句や英文を読んで意味を理解する
▶ 語句や英文を読むことから、「書くこと」につなげる

3学年相当　4学年相当　5学年相当　6学年相当　1学年相当　2学年相当　3学年相当

補足イメージ⑯

高校の外国語科目の改善イメージ①

現状

現状と課題

- 前回改訂では５領域を総合的に扱うことを一層重視する必履修科目として「英語コミュニケーションⅠ」（以下「英語コミュニケーション」を「英コミュ」という）を設定し、更なる総合的な英語力の向上を図るための選択科目として「英コミュⅡ」及び「英コミュⅢ」を設定
- また、「話すこと」「書くこと」を中心とした発信力の強化を図るため、特にスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、まとまりのある文章を書くことなどを扱う選択科目として「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（以下「論理・表現」を「論表」という）を設定
- 世界的にも外国人留学生数が増加している中、日本の大学等においても留学生総数が過去最多となったことや、企業においても英語でのビジネスコミュニケーションを行える力が求められていることを踏まえると、引き続き高校までの英語教育には総合的な英語力の向上と発信力の強化が求められている
- 総則・評価特別部会では、学習の基盤となる資質・能力の一つである「言語能力」に関し、「知識・技能及び思考力・判断力・表現力等の一体的育成」等の実現に向けた思考・判断・表現の過程では、言語により「外化※」し、自分なりの意味を構築していくことが不可欠と示されたところ

※外化：書く・話すなどの活動を通じ、知識の理解や頭の中で思考したことなどを表現すること

改善イメージ

科目名の見直し

- 前回改訂で意図した総合的な英語力の向上と発信力の強化は現在も一層の推進が求められていることを踏まえ、英コミュと論表の科目の趣旨は維持する
- 英語によるコミュニケーションを中核とする科目趣旨を端的に示すため、両科目に「英語コミュニケーション」を共通して置く

  ※今回、「言語活動」の文言を見直し、「コミュニケーション活動」及び「コミュニケーション活動を支える活動」と整理したこととも整合する
- その上で、従来の「英語コミュニケーション」は５領域を総合的に扱う趣旨を示すため必履修科目として「英語コミュニケーション（総合）Ⅰ」、選択科目として「英語コミュニケーション（総合）Ⅱ・Ⅲ」とする
- 「論理・表現」は、Production（表現）と Interaction（やり取り）（「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」）による発信力を一層強化するための選択科目として「英語コミュニケーション（発信）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」とし、当該３領域により、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて英語で情報や考え、意見や主張などを発信するという科目趣旨を丁寧に説明するとともに、科目名の英訳においては科目趣旨が表せるように検討する

  ※いずれも科目名は仮称。従来の論表は「英語コミュニケーション（発信）」とすることで、「話すこと」「書くこと」による「外化」を中心として発信力を強化する趣旨であることを示す

科目共通の方向性

- 新たな英コミュと新たな論表の２科目を併行履修する場合には、新たな英コミュで読んだり聞いたりした話題を新たな論表でも扱ったり、新たな英コミュで扱った言語材料を新たな論表でも活用したりするなど、科目間のカリマネが重要。教師の自助努力のみに委ねずに、カリマネが進むよう、使用する教材間の話題や活動の連携を促進するとともに、学習指導要領において指導上の工夫を促す（なお、科目の組み換えにより統合する場合も同様）
- 領域別あるいは領域統合の活動においては、中高接続の観点も踏まえ、「社会的な話題」に身近なものも含むようにするとともに、中学校での既習の言語材料を繰り返し活用しながら、「思・判・表」を発揮する活動を重視する

補足イメージ⑰

高校の外国語科目の改善イメージ②

現状

「英語コミュニケーション」（英コミュ）

- 5領域の活動のバランスや５領域を総合的に扱うことに対する意識は浸透しつつある
- 一方、教材の文章には発信に活用するには難しい語彙や文法が含まれている場合がある等により、読んだり聞いたりしたことを基に、話したり書いたりするといった領域統合が十分に行われていない

「論理・表現」（論表）

- ５領域を総合的に育成する英コミュと比べて、授業で活動を通した英語使用の機会が十分に与えられておらず、科目の趣旨に沿った指導が十分行われていない実態がある
- その要因としては、以下が考えられる
  - 文法事項を網羅的に指導するため、文法事項を軸にした単元構成の教科書や副教材を活用して、文法解説と問題演習を中心とした授業展開が行われている場合がある
  - 言語使用における正しさを過度に強調し、文法事項や用法の解説が授業の中心となる場合がある
  - やり取りにおける発話や、生徒が書いた文章などに対して個別のフィードバックを行うことが物理的に困難であったり、負担が大きいため、教師が指導方法に難しさを感じている場合がある

改善イメージ

「英語コミュニケーション（総合）」（仮称）

- 小中高の最終段階として総合的な英語力の向上を目指す新たな英コミュが、実社会における外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力をより高められるよう、中学校における学習内容の確実な習熟を図りながら、５領域を総合的に扱いつつ、領域統合を一層重視する科目として内容の改善を図る
- 新たな英コミュの科目趣旨に沿った指導が行われるよう、教材の工夫を促進する
  （例）聞いたり読んだりする資質・能力の育成を目的とした教材と、聞いたり読んだりしたことを基にした領域統合の活動が行いやすいように、発信に活用できる言語材料で構成された教材という２段階で単元を構成するなど

「英語コミュニケーション（発信）」（仮称）

（１）科目の方向性・目的

- 発信力の強化を目指す観点から、新たな論表は表現等を工夫しながら、他教科を含めこれまで学び・体験してきたことも踏まえつつ、幅広い話題について発信できること等を重視する

（２）知識及び技能の内容と取扱い

- 新たな論表で強化する「知・技」として「論理の構成や展開」の扱いを充実させる

（３）活動の充実・体系化

- 主な活動として、現行のスピーチ、プレゼン、ディベート、ディスカッションに加えて、「日常的な会話」を行い、コミュニケーション方略を使いながら会話を継続したり発展させたりする力の育成を扱う
- 書くことの活動の充実を図るため、プロセスを重視した指導を強化するとともに、活動のバリエーションを示す
- 科目趣旨に沿った指導が行われるよう、教材については「コミュニケーション活動」を中心とした単元構成、単元配置になるよう改善を図る
- AIを含むデジタル学習基盤の活用も含め、生徒へのフィードバックの充実に向けた工夫を解説等で示す

補足イメージ⑱

高校

外国語科目の変遷と改訂の方向性

平成11年3月告示

必履 OCⅠ（２単位）
OCⅡ（４単位）
聞く、話す中心

※OC：オーラル・コミュニケーションの略

必履 英語Ⅰ（３単位）
英語Ⅱ（４単位）
４技能を総合的、統合的に育成

リーディング（４単位）
読む中心

ライティング（４単位）
書く中心

必履修はOCⅠか英語Ⅰのどちらか１科目選択必履修

平成21年3月告示

コミュニケーション英語基礎（２単位）
必履 コミュニケーション英語Ⅰ（３単位）
コミュニケーション英語Ⅱ（４単位）
コミュニケーション英語Ⅲ（４単位）
４技能の総合的、統合的な育成を一層強化

英語表現Ⅰ（２単位）
英語表現Ⅱ（４単位）
論理的に表現する能力の育成に焦点

英語会話（２単位）
身近な話題について英語で会話する能力の育成

現行（平成30年3月告示）

必履 英語コミュニケーションⅠ（３単位）
英語コミュニケーションⅡ（４単位）
英語コミュニケーションⅢ（４単位）
４技能の総合的、統合的な育成を一層強化

論理・表現Ⅰ（２単位）
論理・表現Ⅱ（２単位）
論理・表現Ⅲ（２単位）
論理的に表現する能力の育成に焦点

改訂の方向性

必履 英語コミュニケーション（総合）Ⅰ（仮称）（３単位）
英語コミュニケーション（総合）Ⅱ（仮称）（４単位）
英語コミュニケーション（総合）Ⅲ（仮称）（４単位）
科目の趣旨を維持しつつ、領域統合を一層強化

英語コミュニケーション（発信）Ⅰ（仮称）（２単位）
英語コミュニケーション（発信）Ⅱ（仮称）（２単位）
英語コミュニケーション（発信）Ⅲ（仮称）（２単位）
「論表」の趣旨を維持しつつ、発信力を一層強化

【専門教科（英語）】

総合英語
英語理解
英語表現
異文化理解
生活英語
時事英語
コンピュータ・LL演習

→

総合英語
英語理解
英語表現
異文化理解
時事英語

→

総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
ディベート・ディスカッションⅠ・Ⅱ
エッセイライティングⅠ・Ⅱ

→

※上記科目の改善の方向性を踏まえ、必要な改善を行う

補足イメージ⑲

英語を学ぶ動機や発信力を高めるための話題・活動の改善イメージ（中学校の例）

※告示や解説の検討の際に文言や具体例について別途検討

充実

自分のこと

好きなこと、体験したこと、
将来の夢など

身に付けたい英語力についての自己イメージを持つことを促すため、
「英語を使ってやってみたいこと」を示す

（例）自分の好きなスポーツについて聞く
自分の好きな文化に関する記事を読む
英語話者に対して、**英語を使ってやってみたいこと**や自分の将来の夢を話す
ALTに自分の好きなことや嫌いなこと、体験したことについて書いて紹介する

自分の意見

校則や学校の課題など
に対する自分の意見

他者の意見や様々な情報を整理しながら自分の意見を形成・発信する活動を促すため、
「自分の意見」を示す

（例）**自分の意見を形成するために他者の意見や様々な情報を聞く・読む**
皆がより過ごしやすい学校生活にするために、**クラスメイトと困っていることや校則について自分の意見を発表**
健康的な食生活やスクリーンタイムなどについて、**自分の意見を書いて説明する**

※子供たちがより自分の意見を形成・発信する活動に取り組みやすいよう、話題に「身近な社会的な話題」に変更

日本のこと

日本の文化・歴史・
生活・地理など

日本のことについての理解を深め、発信する活動を促すため、
話題・活動の例を充実する

（例）**外国と比較するために日本について調べたり、外国に関連する情報を聞く・読む**
ALTに日本の生活を書いて説明する
海外の児童生徒とお互いの文化を発表し合う

※これまで「教材に関する留意事項」で示していた(ア)多様な考え方に対する理解、(イ)我が国の文化や英語の背景にある文化、(ウ)国際理解の観点を話題・活動に明示

強化

地域のこと

地域の文化・
おすすめの場所・
地域と外国とのつながりなど

児童生徒が自分の住んでいる地域のことを伝える活動を促すため、
地域のことも話題・活動の例に位置付ける

（例）**地域の魅力発信に取り組んでいる英語話者のプレゼンを聞く・読む**
国内の外国人留学生に地域のおすすめの場所等を書いて紹介する
姉妹都市の生徒に自分の地域と相手の地域とのつながりや違いについて発表する

補足イメージ⑳

小学校

文化及び外国語と日本語の違いについて盛り込む要素（イメージ）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の文章は議論を踏まえて引き続き検討
※赤字が新たに盛り込む要素（「指導計画の作成と内容の取扱い」は現行の記載を基にしている）

小学校（外国語活動）

第４章　外国語

第１　目標

外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。（知識及び技能）

（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

第２　各言語の目標及び内容等　英語

２　内容

知識及び技能

（統合的な理解）音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。

英語の特徴等に関する事項

ア　音声　英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いに気付く

文化に関する事項

・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く
・異なる文化を持つ人々との交流などを体験し、文化等に関する理解を深める

３　指導計画の作成と内容の取扱い

⑴　（指導計画の作成）

オ　外国語活動を通して、外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めるようにすること。言語活動で扱う題材についても、我が国の文化や、~~英語の背景にある~~世界の文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとすること。

小学校（外国語）

第２章　第10節　外国語

第１（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

第２　各言語の目標及び内容等　英語

２　内容

知識及び技能

英語の特徴等に関する事項

エ　文及び文構造

日本語と英語の語順の違い等に気付くとともに、意味や使い方を理解して、活用できる。

３　指導計画の作成と内容の取扱い

（３）（教材に関する留意事項）

イ　英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

（ｱ）我が国の文化や、~~英語の背景にある~~世界の多様な文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。

（ｲ）言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様性の包摂や他者との相互理解を図ろうとする態度を養うのに役立つこと。~~多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つこと。~~

（ｳ）広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高め~~るとともに~~、国際協調の精神を養うとともに、多文化共生に対する理解を促すことに役立つこと。

外国語 WG

補足イメージ㉑

中 高

文化及び外国語と日本語の違いについて盛り込む要素（イメージ）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の文章は議論を踏まえて引き続き検討
※赤字が新たに盛り込む要素（「指導計画の作成と内容の取扱い」は現行の記載を基にしている）

中学校

第２章　第９節　外国語

第１（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

第２　各言語の目標及び内容等　英語

３　指導計画の作成と内容の取扱い

（２）（内容の取扱い）

イ　音声指導に当たっては、~~、日本語との違いに留意しながら~~、練習コミュニケーション活動を支える活動などを通して２の（１）のアに示す言語材料を継続して指導するとともに、音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。また、発音と綴りとを関連付けて指導すること。

エ　文法事項の指導に当たっては、次の事項に留意すること。

（ｳ）用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるようにする~~とともに、語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導する~~こと。

オ　コミュニケーション活動及びコミュニケーションを支える活動の中で、日本語と英語の音声や語彙、文構造、文法などの違いに気付かせることに留意しながら指導すること。

カ　多様な他者との相互理解を図るためには相手の文化的背景などに配慮したコミュニケーションが重要であることの理解を深めるとともに、活動においては相手に配慮してコミュニケーションを行えるよう工夫すること。

（３）（教材に関する留意事項）

イ　~~英語を使用している人々を中心とする~~世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、 歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

（ｱ）我が国の文化や、~~英語の背景にある世界の多様な~~文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

（ｲ）言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様性の包摂や多様な他者との相互理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。~~多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。~~

（ｳ）広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高める~~とともに~~、国際協調の精神を養う~~とともに~~、多文化共生に対する理解を促すのに役立つこと。

高等学校

第２章　第８節　外国語

第１款（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

第２款　各科目

第３款　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

１　（指導計画の作成）

（7）言語能力の向上を図る観点から、言語活動などにおいて国語科と連携を図り、指導の効果を高める~~とともに、日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気付かせ、その背景にある歴史や文化、習慣などに対する理解が深められるよう工夫をする~~こと。

２　（内容の取扱い）

（7）コミュニケーション活動及びコミュニケーションを支える活動の中で、日本語と英語の音声や語彙、文構造、文法、論理の展開などの違いに気付かせることに留意しながら指導すること。

(8) 多様な他者との相互理解を図るためには相手の文化的背景などに配慮したコミュニケーションが重要であることの理解を深めるとともに、活動においては相手に配慮してコミュニケーションを行うよう工夫すること。

３　（教材に関する留意事項）

（2）~~英語を使用している人々を中心とする~~世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

（ｱ）我が国の文化や、~~英語の背景にある世界の多様な~~文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

（ｲ）言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、複眼的に社会や世界を見る力や多様性の包摂、多様な他者との相互理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。~~多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。~~

（ｳ）社会がグローバル化する中で、広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高める~~とともに~~、国際協調の精神を養う~~とともに、多文化共生に対する理解を促す~~のに役立つこと。

（ｴ）人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。

外国語教育における文化の理解等に関するイメージ

補足イメージ㉒

外国語の「見方・考え方」

言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育む

●異なる言語・文化への理解を促す　●母語や自国の文化のメタ認知を促す　●コミュニケーションへの深い理解を促す

高等学校

言語習得：外国語によるコミュニケーションにおいて、相手の文化的背景などを踏まえて配慮ができる

相互理解：言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様な他者との相互理解を深めようとする

（参考：現行の解説）
- 相手の外国語の文化的背景によって「配慮」の仕方も異なってくることを理解できる
- 他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てる
- 我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知るようになるとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度を育成する
- 世界の中の日本人であることの自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うように配慮する

中学校

言語習得：外国語によるコミュニケーションにおいて、相手の文化的背景などを踏まえた配慮を図ろうとする

相互理解：言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様な他者との相互理解を深めようとする

（参考：現行の解説）
- 相手の外国語の文化的背景によって「配慮」の仕方も異なってくることを理解できる
- 他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てる
- 我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知るようになるとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度を育成する
- 世界の中の日本人であることの自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うように配慮する

小学校・外国語

言語習得：外国語によるコミュニケーションにおいて、日本語と英語の違いに気付き、外国語の言語文化に慣れ親しむ

相互理解：我が国の文化や、世界の多様な文化に対する関心を高め、理解を深めようとする

（参考：現行の解説）
- 日本語との音声の違いにとどまらず、文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについても日本語との違いに気付く
- 気付きで終わるのではなく、それらが外国語でコミュニケーションを図る際に活用される、生きて働く知識として理解される
- 多様な考え方を理解し、柔軟に対応することや、公正な判断力を養い、相手の状況や立場を共感的に理解できる心情を育成する
- 我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点相違点を知るようになるとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度やお互いの文化を尊重する態度を育成する
- 複数の文化に触れることが、（略）英語によるコミュニケーションの中で我が国の文化を発信することにもつながっていく日本の文化や価値観、考え方などについての自覚を高める

小学校・外国語活動

言語や文化の違いや共通点を体験的に理解し、外国語や外国語によるコミュニケーションに慣れ親しむ

（参考：現行の解説）
- 外国語と日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付く
- 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く
- 異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、文化等に対する理解を深める
- 母語と外国語を比べることで、言語には普遍性と固有性があることに気付く
- 母語の性質や価値、外国語の性質や価値をよりよく理解できるようになる

語彙の改善イメージ（案）

現状

- 各校種の語彙数の目安があるのみ
  - 中学校では難易度の高い語彙が登場
  - 各教科書の語彙選定にばらつき
  - 過度な負担、重要な語彙の学習が不十分

改善イメージ

- 語彙選定の基盤語彙リストを示すとともに話題を改善（第４回議論）
  - 教科書の語彙の難易度の平準化
  - 教科書の語彙選定の平準化
  - 負担の適正化、重要な語彙を身に付けられる

現行の語彙数

合計　4,000～5,000（リストなし）

※大学受験等への対応のために5,000語以上の語彙を学習する場合もある

高　1,800～2,500語

英コミュⅠ 400～600
英コミュⅡ 700～950
英コミュⅢ 700～950

中　1,600～1,800語

小　600～700語

語彙数の精選
明確なリスト化

今後のあり方

合計　●語程度

語彙リスト

- 複数のコーパスを参照するなどして作成
- 語彙の難易度（CEFRレベル等）、使用頻度等に基づく重要度等（カタカナ語との対応等を含む）を勘案して優先順位付け及び各学校段階への振り分けを検討
  - ※その際、他のアジア諸国における状況も参考にする必要
  - ※高校については、生徒の実態も様々であるため、教科書の多様性の担保が必要であることに留意が必要
  - ※小・中学校においても、難易度が過度に高まらないようにしつつも、引き続き教科書で多様な話題を取り扱うことができるよう配慮が必要
  - ※リストを必要に応じて更新できるよう継続的に調査研究を実施

※入試や調査の作問に資するよう、各教科書の新出語彙リストは電子データとして提供されるべき

話題の改善イメージ（中学校の例）（Ver.３）

補足イメージ㉔

現状

取り扱う話題が学年別で示されておらず、様々な難易度のものが混在

中１～中３

日常的な話題

生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるもの
生徒の興味・関心の対象となることや社会生活で必要なこと

（例）

自分に関すること
- 自分の好きなことや嫌いなこと、趣味、日常的に行っていることや過去の行動などに関する事柄
- 住んでいる場所や部屋の様子、行きたい場所、所有しているもの、好きな動植物や飼っているペット
- １日の日課、週末や長期休暇の出来事や計画、将来の夢
- 学校生活における出来事、学校行事（修学旅行先、部活動）

友達や家族、教師等に関すること
- 家庭生活における出来事、友人や教師が休日を過ごした中で感じたこと、ALTの好きなものや体験（お気に入りの日本食、旅行中に体験したこと）

相手に関すること
- 外国の中学生の学校生活

その他
- 天気予報、交通情報、製品の取扱い方、スポーツクラブのパンフレット

社会的な話題

社会で起こっている出来事や問題に関わる話題

（例）エネルギー問題、環境問題（地球温暖化、自然との共存等）、世界情勢、科学技術、平和問題、人権問題、国際協力、ICTの普及、社会貢献

（その他）

身近な事柄

（例）友達からの招待、電話の留守電機能にあるメッセージ

関心のある事柄

自分が関心をもっていること

（例）趣味や好き嫌い、日記や短い説明

身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていること

（例）スポーツ、音楽、映画、テレビ番組、学校行事（文化祭など）、休日の計画、日常の出来事

※現行の解説を基に作成

改善イメージ

各学年で取り扱うべき話題の難易度を整理し、身近なものから段階的に抽象的なものを取り扱うよう改善

中１相当 | **中２相当** | **中３相当**

聞くこと・読むこと

日常的な話題

（例）友達、家族、学校、地域、店、公共機関　など

身近な社会的な話題

（例）健康的な食生活、スクリーンタイム、皆が過ごしやすい学校づくりなど

※フェイクニュース、インバウンド、外国人から見える日本、国際協力などについては生徒が興味をもったり自分と関連付けて捉えられるように内容を工夫

話すこと・書くこと

日常的な話題

身近な話題について
- ごく身近な事柄や出来事について
  （例）自分のこと、相手と共通して関心をもっていること
- 身近な事柄について
  （例）身の回りのこと、相手と共通してもっている話題（学校、地域）

（自分にとって）興味・関心のある話題

※相手が必ずしも興味・関心をもっているとは限らない

身近な社会的な話題

※上記話題については、内容の具体的な文言及び学年内における「できること」の段階付けを含め、告示や解説を示すにあたり別途検討

外国語 WG

中 高

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する単元の活動・指導（イメージ）（Ver.3）

補足イメージ㉕

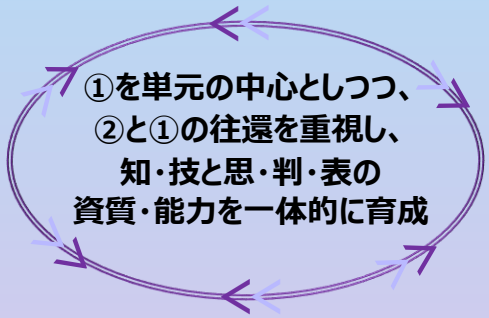
生徒が行う活動

①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

※知・技も習熟・熟達に向かう

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて

外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動



授業と家庭学習との連携

②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

話や文章などの中で音声や語彙、文法等を理解し、活用する活動

（例）
- 特定の語彙や文法等を簡単なやりとりや発表、書くことで使う活動
- 特定の語彙や文法等の意味や使い方に気付いたり理解したりする活動
- 語句や表現を覚える活動
- 流暢性を高める活動

教師の指導

①の活動に対する指導

（例）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた、
- 聞き取ったり、読み取ったりした情報の整理などに関する指導
- 相手に伝える内容に関する指導
- 分かりやすく伝えるための伝える順序などに関する指導
- 相手の理解に配慮した伝え方の工夫に関する指導

（①⇔②を往還させる指導の例）

①の「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」を生徒に共有して学習の目的意識を持たせ、
- ①を行うことにより知識及び技能の必要性（表現しきれないことや間違い等）に気付かせ、②により改善を図り、再度①を行う
- ②である程度活用できるようになった知識及び技能を①で使わせ、必要に応じて再度②を行う

②の活動に対する指導

（例）
- 特定の語彙や文法等について、意味や使い方の理解を促す指導
- 新規事項を既習事項と関連付けて整理する指導
- 関連する語彙や文法等を効果的に整理する指導
- 様々な学習方略の指導

※いずれも個々の生徒の理解や特性に応じ、個別又は全体に対して実施

※①と②は活動・指導の順序を表すものでもない

※①においてコミュニケーションの意図（仮称） 等を参照するとともに、②においてコミュニケーションの意図（仮称）を扱う際は語彙や文法等を特定しない場合もある

※単元全体や個々の授業でどのような資質・能力の育成を目的としているかに着目して活動や指導の内容を判断すべきであり、上記で示しているものは個々の活動や指導の外形的な条件ではない

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する単元の活動・指導（イメージ）（Ver. 2）

補足イメージ㉖

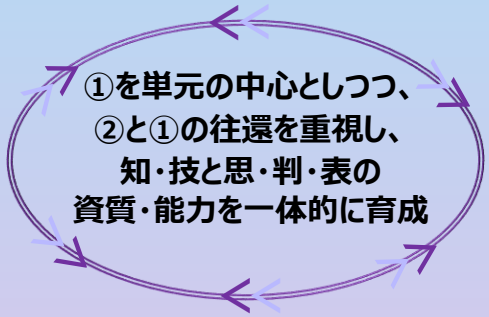
※黄マーカー：中学校との主な相違点

児童が行う活動

①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

※知・技も深まる

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて
外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動



授業と家庭学習との連携

②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

話や文などの中で音声や文字、語彙、表現等を理解し、活用する活動

（例）
- 特定の語彙や表現等を簡単なやりとりや発表、書くことで使う活動
- 音声や文字、語彙、表現、文構造等について日本語との違いについて気付いたり理解したりする活動
- 音声を中心に語彙や表現を聞いたり話したりすることを身に付ける活動

教師の指導

①の活動に対する指導

（例）
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた、
- 聞き取ったり、読み取ったりした情報の整理などに関する指導
- 相手に伝える内容に関する指導
- 分かりやすく伝えるための伝える順序などに関する指導
- 相手の理解に配慮した伝え方の工夫に関する指導

（①⇔②を往還させる指導の例）
①の「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」を児童に共有して学習の目的意識を持たせ、
- ①を行うことにより知識及び技能の必要性（表現しきれないことや間違い等）に気付かせ、②により改善を図り、再度①を行う
- ②である程度活用できるようになった知識及び技能を、①で使わせ、必要に応じて再度②を行う

②の活動に対する指導

（例）
- 特定の語彙や表現、文構造等について、理解を促す指導
- 特定の語彙や表現等の意味や使い方について整理する指導
- 様々な学習方略の指導

※いずれも個々の児童の理解や特性に応じ、個別又は全体に対して実施

※小学校外国語においては、音声や文字、語彙、表現等を特定の場面などと関連付けながら気付かせる段階であることを踏まえ、②を①と関連付けて指導することが特に大事
※①と②は活動・指導の順序を表すものでもない
※①においてコミュニケーションの意図（仮称） 等を参照する
※単元全体や個々の授業でどのような資質・能力の育成を目的としているかに着目して活動や指導の内容を判断すべきであり、上記で示しているものは個々の活動や指導の外形的な条件ではない

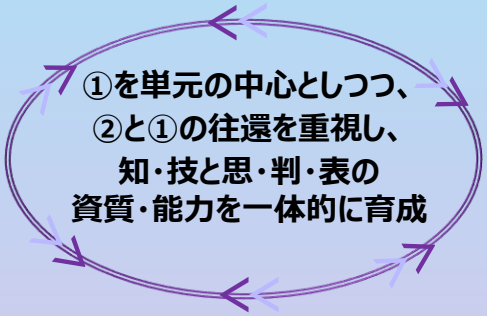
外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する単元の活動・指導（イメージ）（Ver. 2）

※黄マーカー：小学校・外国語との主な相違点

児童が行う活動

①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動



②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、言語や文化の違いや共通点について体験的に理解する活動

（例）
- 外国と日本の違いや共通点に気付く活動
- 英語の音声や基本的な表現等を聞く活動
- 英語の簡単な語句や基本的な表現等を用いて話す活動

教師の指導

①の活動に対する指導

（例）
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識した、
- 相手に伝える内容に関する指導
- 相手に配慮した伝え方の工夫に関する事項

（①⇔②を往還させる指導の例）
- ②で慣れ親しんだ英語の音声や基本的な表現を①の活動で使わせ、必要に応じて再度②を行う
- ①を行った上で②により英語の音声や基本的な表現への気付きを促し、使い方に慣れ親しませ、再度①を行う

②の活動に対する指導

（例）
- 外国と日本の違いや共通点に気付かせる指導
- 英語の音声や簡単な語句、基本的な表現等に慣れ親しむ指導

※小学校外国語活動においては、初めて英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ段階であることを踏まえ、②で扱った英語の音声や基本的な表現等を①と関連付けて指導することが特に大事
※①と②は活動・指導の順序を表すものでもない
※単元全体や個々の授業でどのような資質・能力の育成を目的としているかに着目して活動や指導の内容を判断すべきであり、上記で示しているものは個々の活動や指導の外形的な条件ではない

外国語 WG

中 高

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導のあり方等に盛り込む要素（イメージ）（Ver.３）

補足イメージ㉘

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の文章は議論を踏まえて引き続き検討。

本文に盛り込む要素（イメージ）

第１　目標

- 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す

（知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力・人間性等）

第２　各言語の目標及び内容等　英語 ※高校では「各科目」

３　指導計画の作成と内容の取扱い ※高校では「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」

- コミュニケーション活動は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思・判・表を育成する
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動として、話や文章などの中で、音声や語彙、表現、文構造、文法等を理解し、活用する活動を行い、主に知・技を育成する
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動は、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことについて行う
  （※高校では統合的な活動も記載）
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動を往還しながら、知・技と思・判・表を一体的に育成する
  - ✓ 実際の活動には、知・技と思・判・表の育成の両方の要素が含まれることが多いと考えられるが、主にどのような資質・能力を育成しようとしているのかを踏まえて活動を行うことの重要性
  - ✓ 導入した語彙や文法等をすぐに話せる、書けることを求めるのではなく、聞いたり読んだりして理解する段階から、次第に話したり書いたりする段階へと発展させる

解説で記載する要素例（イメージ）

- コミュニケーション活動では、生徒が既習事項等を最大限駆使して行うことの重要性
- コミュニケーション活動の中で、音声や語彙、文法等の意味や使い方の理解が深まったり、場面や状況に応じて組み合わせて使う力が高まったりするなど、知・技も習熟・熟達に向かうことに留意
- コミュニケーション活動を単元の中心としつつ、生徒の学習状況等に応じて、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動のバランスを考慮する必要性
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動の適切なタイミング（コミュニケーション活動の前後や間）を考慮する必要性
- 具体的な指導例

外国語 WG

小・外国語

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導のあり方等に盛り込む要素（イメージ）（Ver.３）

補足イメージ㉙

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の文章は議論を踏まえて引き続き検討。

※黄マーカー：中学校との主な相違点

本文に盛り込む要素（イメージ）

第１　目標

- 外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す
  （知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力・人間性等）

第２　各言語の目標及び内容等　英語

３　指導計画の作成と内容の取扱い

- コミュニケーション活動は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思・判・表を育成する
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動として、話や文章などの中で、音声や文字、語彙、表現、文構造等を理解し、活用する活動を行い、主に知・技を育成する
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動は、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことについて行う
- 小学校外国語においては、音声や文字、語彙、表現、文構造等を特定の場面などと関連付けながら気付かせる段階であることを踏まえ、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動を往還しながら、知・技と思・判・表を一体的に育成する
  - ✓ 実際の活動には、知・技と思・判・表の育成の両方の要素が含まれることが多いと考えられるが、主にどのような資質・能力を育成しようとしているのかを踏まえて活動を行うことの重要性
  - ✓ 導入した語彙や表現等をすぐに話せる、書けることを求めるのではなく、聞いたり読んだりして理解する段階から、次第に話したり書いたりする段階へと発展させる。特に、読むこと、書くことにおいては、音声で十分に慣れ親しんだ上で、理解したり活用したりできる指導を行う

解説で記載する要素例（イメージ）

- コミュニケーション活動では、児童が既習事項等を最大限駆使して行うことの重要性
- コミュニケーション活動の中で、音声や文字、語彙、表現、文構造等についての理解が深まり、場面や状況に応じて組み合わせて使う力が高まったりするなど、知・技も深まることに留意
- コミュニケーション活動を単元の中心としつつ、児童の学習状況等に応じて、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動のバランスを考慮する必要性
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動の適切なタイミング（コミュニケーション活動の前後や間）を考慮する必要性
- 具体的な指導例

外国語 WG

小・外国語活動

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導のあり方等に盛り込む要素（イメージ）

補足イメージ㉚

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の文章は議論を踏まえて引き続き検討。

※黄マーカー：小学校・外国語との主な相違点

本文に盛り込む要素（イメージ）

第１　目標

- 外国語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す
  （知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力・人間性等）

第２　各言語の目標及び内容等　英語

３　指導計画の作成と内容の取扱い

- コミュニケーション活動は、外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思・判・表を育成する
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動として、英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、言語や文化の違いや共通点について体験的に理解する活動を行い、主に知・技を育成する
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動は、聞くこと、話すことについて行う
- 小学校外国語活動においては、音声や語彙を使用される場面などと関連付けながら気付かせる段階であることを踏まえ、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動を往還しながら、知・技と思・判・表を一体的に育成する
  - ✓ 実際の活動には、知・技と思・判・表の育成の両方の要素が含まれることが多いと考えられるが、主にどのような資質・能力を育成しようとしているのかを踏まえて活動を行うことの重要性
  - ✓ 導入した語彙や表現等をすぐに話せることを求めるのではなく、聞いて慣れ親しむ段階から、次第に話すことに慣れ親しむ段階へとつなげていく

解説で記載する要素例（イメージ）

- コミュニケーション活動では、児童が十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて行うことの重要性
- 英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、コミュニケーション活動で、相手と意味のあるやり取りを様々な場面設定の中で行うことを通して、英語の音声や基本的な表現等への気付きを促すとともに、日本と外国の言語や文化の違いや共通点について理解するなど、知・技も同時に育成されることに留意
- コミュニケーション活動を単元の中心としつつ、初めて外国語に触れる段階であることに考慮して、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動のバランスを考慮する必要性
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動の適切なタイミング（コミュニケーション活動の前後や間）を考慮する必要性
- 具体的な指導例

補足イメージ㉛

中学校

「コミュニケーションの意図（仮称）」について本文・解説に盛り込む要素（イメージ）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の構成や文章は議論を踏まえて引き続き検討。また、小学校・高等学校の記述も今後検討。
※（例）は本資料の理解のために示しているものであり、解説における指導の観点や例示の記載は今後検討。

本文に盛り込む要素（イメージ）

3　指導計画の作成と内容の取扱い

コミュニケーション活動（思・判・表の指導）における取扱い

- コミュニケーション活動は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思考力、判断力、表現力等を育成する。コミュニケーション活動を行うに当たっては、**別表を参照する**
- 「コミュニケーション活動」の中では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、目的の達成に向けて、伝える内容や順序などを意識しながら既習の知識及び技能を駆使することが重要である

（例：「日本に来たことがない海外の生徒におすすめしたい食べ物を紹介する」活動の場合、まず**「挨拶」**から入り、相手の好きな食べ物や苦手なものや食べられないものを**「質問」**し、相手の好みに合わせておすすめの食べ物について**「説明」**し、おすすめする**「理由を述べる」** など）
※解説では受容の例も示す

コミュニケーション活動を支える活動（知・技の指導）における取扱い

- 「コミュニケーション活動」につながるよう、「コミュニケーション活動を支える活動」において、同じ語彙や表現、文法事項等でも、**使用される場面や状況などに応じた様々な意味や使い方**があることを意識し、使えるようにすることが重要である

（例：「Can you ～？」は、「（～ができるか）**質問する**」のみの場合もあれば、**「依頼する」**（Can you help me?）や**「誘う」**（Can you come to our school festival?）といった意図を含みうる）

- また、**似たような意味や使い方**がある既習事項を整理し、使えるようにすることも、コミュニケーションで使える知識及び技能とするために重要であるとともに、コミュニケーションの目的を達成しやすくなり、思考力、判断力、表現力等の育成にも資するものである

（例：「コミュニケーション活動を支える活動」において、様々な**「依頼」**の仕方について既習の表現を使う　など）

※なお、必ずしも毎回上記のような指導をしなければならないものではなく、既習事項を整理する際に生徒の実態に応じて段階的に取り扱うことが必要である

教材における取扱い

- コミュニケーション活動においては、**別表を参照**し、それに必要な知識及び技能を取り扱うようにする

※現行の「言語の働き」に関連する内容のみを記載

別表

※以下は現行を基にした案であり、文言や例示等を含め、詳細は議論を踏まえて引き続き検討。

①コミュニケーション活動
（具体的な活動を例示）

②コミュニケーションの場面
（現行の「言語の使用場面の例」を再整理の上、例示）

③コミュニケーションの意図（仮称）
（現行の「言語の働きの例」を再整理の上、例示）

- 「相手との関係を円滑にする」・「気持ちを伝える」
  （例）挨拶する、・・・
- 「事実・情報を共有する」・「相手の行動を促す」
  （例）質問する、説明する、理由を述べる、依頼する、招待する、・・・
- 「考えや意図を共有する」
  （例）意見を言う、・・・

例示にあっては、CEFRの言語コミュニケーション活動のマクロ機能も参照し、小中高の接続を踏まえつつ、段階的に高度化するようにする

補足イメージ㉜

資質・能力の育成に繋がる学習評価のプロセスの再整理（案）

※令和8年3月30日総則・評価特別部会資料1-1　P24を基に中学校をイメージして作成
（黄色マーカーは外国語独自の部分）

国が定める基準・参考資料

学習指導要領・解説	学習指導要領・解説	学習指導要領・解説	国研参考資料	指導要録通知(※1)	国研参考資料(※2)
外国語の目標	英語の目標	個別の内容	内容のまとまり（領域）ごとの評価規準例	「学びに向かう力」の「見取る姿」（仮称）	単元の「指導と評価計画」作成の実例
各教科等がどのような資質・能力の育成を目指しているのかを端的に示す		各教科等で育成すべき具体的な資質・能力を示す	内容のまとまりごとの評価規準例を示すもの	「学びに向かう力の３要素」の見取りの着眼点を各教科毎に端的に示す	各学校が実際に単元の「指導と評価の計画」を作成する上での具体例やポイントを示すもの
知技・思判表・学びに向かう力		知技・思判表×５領域	知技・思判表×５領域		

※思判表は領域別に、知技は５領域との関連を示す

基に作成　　参照・活用　　参照・活用

目標設定

単元の目標（評価規準）の設定

何を身につけさせたいかを明確にし、単元の目標を設定する（目標はそのまま評価規準となるようにする）

※単元で扱う「内容のまとまり」（領域）の目標を設定する

指導と評価の構想

評価課題のデザイン

身につけさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる評価課題を考える（単元の学習課題をそのまま評価課題とすることも考えられる）

一体的に構想

学習過程のデザイン

評価課題に向けて、多様な特性を持つ児童生徒が資質・能力を身につけやすい学習活動を組み立てる

指導と評価の実施

授業の実施

多様な子供達の個に応じた学習過程の工夫を支えながら、学習活動を展開する

子供の状況に応じて学習・指導を調整

形成的評価の計画的な実施

身につけさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックを与える

総括的評価

学習成果を観点別評価・評定へ総括する。学年末に絞るなど頻度を抑え、形成的評価を充実する

各学校で行う学習評価の手順例

単元の目標・評価規準の作成の際に基にする部分のイメージ（中学校の例）

補足イメージ㉝

外国語の目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
外国語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。

見方・考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英語の目標

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
英語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。

内容

思考力、判断力、表現力等

（総合的な発揮）
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、
・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。【理解する】
・情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】
・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】

知識及び技能

（統合的な理解）
英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

		第１学年相当	第２学年相当	第３学年相当
聞くこと	話題	日常的な話題について 身近な社会的な話題について　※後半以降を想定		
	条件	簡単な語句や文で、はっきりと話されれば		
	できること	（ア）必要な情報を聞き取ることができる （イ）概要を捉えることができる （ウ）要点を捉えることができる		
読むこと	条件	簡単な語句や文で書かれた		
	できること	（ア）必要な情報を読み取ることができる （イ）概要を捉えることができる （ウ）要点を捉えることができる		
話すこと（やり取り） 話すこと（発表）	話題	日常的な話題について（身近な話題について、（自分にとって）興味・関心のある話題について） 身近な社会的な話題について　※後半以降を想定		
	条件	簡単な語句や文を用いて		
	できること	（ア）自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合うことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） （イ）事実や自分の考え、気持ちなどを整理し伝え合うことができる （ウ）聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる （ア）自分の考えや気持ちなどを即興で話すことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） （イ）事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる （ウ）聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを話すことができる		
書くこと	できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを文で書くことができる （イ）事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる （ウ）聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを書くことができる		
英語の特徴やきまりに関する事項	ア　音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる ・・・		
	イ　符号	符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に活用できる ・・・		
	ウ　語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだりする際に活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも、活用できる ・・・		
	エ　文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に活用できる ・文　・・・ ・文構造　・・・ ・文法事項　・・・		

【オレンジ枠】
各学校が単元の目標（評価規準）を設定する際に基にする部分

【水色枠】
国が「内容のまとまりごとの評価規準例」を作成する際の「内容のまとまり」

資質・能力の関係性の整理イメージ（中学校の例）（Ver.2）

補足イメージ㉞

※以下は並行パターンとして知・技と思・判・表の関係性を整理するために作成したものであり、活動や指導の順序性、評価場面等を示しているものではない。

思考力、判断力、表現力等

個別の思考力、判断力、表現力等

外国語によるコミュニケーションを行う**目的や場面、状況などに応じて**
コミュニケーションの目的を達成するために聞いたり、読んだり、話したり、書いたりできる力

思・判・表
（例）内容の[聞くこと]（イ）
身近な社会的な話題について
簡単な語句や文で、
はっきりと話されれば
概要を捉えることができる

思・判・表
（例）内容の[書くこと]（ア）
日常的な話題について
簡単な語句や文を用いて
情報や自分の考え、気持ちなどを
文で書くことができる

「①コミュニケーション活動」**（聞く・読む・話す・書く）**で育成

資質・能力の
「深まり」

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、思考力、判断力、表現力等を
組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる　など

思・判・表　思・判・表　思・判・表

知・技を活用しながら、実際のコミュニケーションで目的を達成できる思考力、判断力、表現力等

学習評価の対象となる部分

※当面は「統合的な理解」「総合的な発揮」の育成状況自体について一律に直接的な評価を行うことは求めず、「統合的な理解」「総合的な発揮」は各学校における単元構想を含む指導・評価の計画や実施の質を構造的に支える役割を果たすものとして整理
※知技と思判表を同一のパフォーマンステスト等で評価することも引き続き可能（具体的には評価参考資料の作成の際に検討）

資質・能力の
「一体的育成」

資質・能力の
「一体的育成」

知識及び技能

個別の知識や技能

話や文章などの中で、音声や語彙、表現、文構造及び文法等を理解し（知識）、活用できる力（技能）

知・技
（例）語彙や表現、文構造
及び文法事項を、
英語で読む際に活用できる

知・技
（例）音声や語彙、表現、
文構造及び文法事項を、
英語で話す際に活用できる

「②コミュニケーション活動を支える活動」**（聞く・読む・話す・書く）**で育成
※「①コミュニケーション活動」で活用することによっても深まる

資質・能力の
「深まり」

知識及び技能に関する統合的な理解

知・技が相互に関連付けられて一般化され、
統合的な理解となった姿

英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している

知・技　知・技　知・技

実際のコミュニケーションで活用できる知識及び技能

英語の目標・高校の科目目標と「統合的な理解」「総合的な発揮」（Ver. 3）

見方・考え方

見方
考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを
文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、
多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英語の目標 高校の科目目標

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校(英コミュ(総合)Ⅰ)(仮称)
英語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。	英語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。	英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。	英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

内容

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校（英コミュ（総合）Ⅰ）（仮称）
ごく身近な事柄について、 ・情報などを聞き、内容を捉えようとしている。【理解する】 ・相手を意識しながら、自分の考えなどを話して伝えようとしている。【表現する】 ・相手を意識しながら、自分の考えなどを伝え合おうとしている。【伝え合う】	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、 ・聞いて情報を整理し、音声で十分に慣れ親しんだ表現等の意味を考えながら読むことができる。【理解する】 ・自分の考えなどを整理し、表現等を選んで相手に話して伝えるとともに、音声で十分に慣れ親しんだ表現等を用いて、書いて伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを踏まえ、自分の考えなどを、表現等を選んで伝え合うことができる。【伝え合う】	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、 ・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、自分の考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】

知識及び技能に関する統合的な理解

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校（英コミュ（総合）Ⅰ）（仮称）
音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

構造化のイメージ（小・外国語活動の例）

外国語活動の目標　外国語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	ごく身近な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるとともに、相手を理解しようとする態度を養う。

見方・考え方　外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英語の目標　英語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
英語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	ごく身近な事柄について、英語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるとともに、相手を理解しようとする態度を養う。

内容

				第３学年相当	第４学年相当
思考力、判断力、表現力等	（総合的な発揮） ごく身近な事柄について、 ・情報などを聞き、内容を捉えようとしている。【理解する】 ・相手を意識しながら、自分の考えなどを話して伝えようとしている。【表現する】 ・相手を意識しながら、自分の考えなどを伝え合おうとしている。【伝え合う】	聞くこと	話題	相手のことや身の回りの物について	ごく身近な事柄について
			条件	ゆっくりはっきりと話されれば	
			できること	（ア）簡単な語句や基本的な表現を聞き取ろうとしている	
		話すこと（やり取り）	話題	基本的なやり取りに関する事柄について 自分のことや身の回りの物について	自分や相手のこと及びごく身近な事柄について
			条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
			できること	（ア）挨拶、感謝、指示をしたりそれらに応じたりしようとしている （※基本的なやり取りに関する事柄に対応） （イ）動作を交えながら、自分の考えや気持ちを伝え合おうとしている （※自分のことや身の回りの物に対応） （ウ）サポートを受けて、質問をしたり質問に答えたりしようとしている （※自分や相手のこと及びごく身近な事柄）	（思・判・表）第４回の議論を踏まえ、現行の英語の領域別目標を基に、話題とできることについて段階的に示す
		話すこと（発表）	話題	自分のことや身の回りの物について	ごく身近な事柄について
			条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
			できること	（ア）人前で実物などを見せながら、話そうとしている	
知識及び技能	（統合的な理解） 音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。	英語の特徴等に関する事項	ア　音声	英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いに気付く	文字の取扱い（知・技）について丁寧に示す
			イ　文字	文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かる ・文字の名称を表す読み方を聞いて、大文字や小文字と結びつけられる ・身の回りの物を表す語句の発音を聞いて、何を指しているか分かる	
		文化に関する事項		・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く ・異なる文化を持つ人々との交流などを体験し、文化等に関する理解を深める	

※内容の具体的な文言及び学年内における「できること」の段階付けを含め、告示や解説を示すにあたり別途検討
※第４回で議論した、校種間の接続のための留意事項（各学校段階で身に付けさせるべき事項と、前学校種からの学びの接続のために重点をおいて指導すべき事項）については主として「内容の取扱い」に記載する（小学校外国語科、中学校も同様）

構造化のイメージ（小・外国語の例）

外国語の目標

外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
外国語の特徴やきまりを理解するとともに、読むこと、書くことにおいて慣れ親しみ、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして伝え合うことができる基礎的な力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を図ろうとする態度を養う。

見方・考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英語の目標

英語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
英語の特徴やきまりを理解するとともに、読むこと、書くことにおいて慣れ親しみ、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ英語の語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして伝え合うことができる基礎的な力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を図ろうとする態度を養う。

内容

			第５学年相当	第６学年相当
思考力、判断力、表現力等	（総合的な発揮） コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、 ・聞いて情報を整理し、音声で十分に慣れ親しんだ表現等の意味を考えながら読むことができる。 【理解する】 ・自分の考えなどを整理し、表現等を選んで相手に話して伝えるとともに、音声で十分に慣れ親しんだ表現等を用いて、書いて伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを踏まえ、自分の考えなどを、表現等を選んで伝え合うことができる。【伝え合う】	聞くこと	話題	相手のことや身近な事柄について	
			条件	ゆっくりはっきりと話されれば	
			できること	（ア）簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる （イ）具体的な情報を聞き取ることができる　※後半以降を想定	（ウ）短い話の概要を捉えることができる
		読むこと	話題	自分のことや相手のことについて 身近な事柄について　※後半以降を想定	
			条件	音声で十分に慣れ親しんだ上で	
			できること	（ア）簡単な語句や基本的な表現を読んでその意味を捉えることができる	（イ）簡単な語句や基本的な表現から具体的な情報を読み取ることができる
		話すこと（やり取り）	話題	基本的なやり取りに関する事柄について 自分のことや相手のこと及び身近な事柄について	
			条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
			できること	（ア）　挨拶をしたり、指示や依頼に応じたりすることができる（※基本的なやり取りに関する事柄に対応） （イ）　自分の考えや気持ちなどを述べ合うことができる（※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応）	（ウ）その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる（※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応）
		話すこと（発表）	話題	自分のことや相手のこと及び身近な事柄について	
			条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
			できること	（ア ）自分の考えや気持ちを話すことができる	（イ）自分の考えや気持ちを伝えようとする内容を整理した上で、話すことができる
		書くこと	話題	自分のことや相手のことについて 身近な事柄について　※後半以降を想定	
			条件	音声で十分に慣れ親しんだ上で	
			できること	（ア）自分の考えや気持ちなどを表す語句を選んで書き写すことができる	（イ）例となる語句や表現を参考に、自分の考えや気持ちなどを書くことができる
知識及び技能	（統合的な理解） 英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴等に関する事項	ア　音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に活用できる。また、聞いたり話したりする際に、音声の特徴に気付き、活用できる ・・・	
			イ　文字及び符号	英語の文字を識別し、その読み方を発音したり、大文字、小文字を書いたりできるようにすることができる。また、符号の使い方を理解し、読んだり書いたりする際に活用できる ・大文字や小文字の形を認識し、名称の読み方を発音することができる ・音声と文字との関係に慣れ親しんだり、音声と語句や表現を結びつけたりすることができる ・コミュニケーションを行うために文字を書くことを意識させ、文字の形や長さなどを理解して、丁寧に語句や表現を書き写すことができる ・終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号の使い方を理解することができる	
			ウ　語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現について、音声を中心に意味を理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に活用できる ・・・	
			エ　文及び文構造	日本語と英語の語順の違い等に気付くとともに、意味や使い方を理解して活用できる。なお、文を書き写す際には、語と語の区切りに注意して書き写すことができる ・文　・・・ ・文構造　・・・	

（思・判・表）第４回の議論を踏まえ、現行の英語の領域別目標を基に、話題とできることについて段階的に示す

読むことについて丁寧に示す

書くことについて丁寧に示す

文字の取扱いについて丁寧に示す

※内容の具体的な文言及び学年内における「できること」の段階付けを含め、告示や解説を示すにあたり別途検討

構造化のイメージ（中学校の例）

外国語の目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
外国語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。

見方・考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英語の目標

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
英語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。

内容

				第１学年相当	第２学年相当	第３学年相当
思考力、判断力、表現力等	（総合的な発揮） コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、 ・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】		話題	日常的な話題について 身近な社会的な話題について　※後半以降を想定		
		聞くこと	条件	簡単な語句や文で、はっきりと話されれば		
			できること	（ア）必要な情報を聞き取ることができる （イ）概要を捉えることができる （ウ）要点を捉えることができる		
		読むこと	条件	簡単な語句や文で書かれた		
			できること	（ア）必要な情報を読み取ることができる （イ）概要を捉えることができる （ウ）要点を捉えることができる		
		話すこと（やり取り）	話題	日常的な話題について（身近な話題について、（自分にとって）興味・関心のある話題について）	身近な社会的な話題について　※後半以降を想定	
			条件	簡単な語句や文を用いて		
		話すこと（発表）	できること	（ア）自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合うことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） （イ）事実や自分の考え、気持ちなどを整理し伝え合うことができる （ウ）聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる （ア）自分の考えや気持ちなどを即興で話すことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） （イ）事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる （ウ）聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを話すことができる		
		書くこと		（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを文で書くことができる （イ）事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる （ウ）聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを書くことができる		
知識及び技能	（統合的な理解） 英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴やきまりに関する事項	ア　音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる ・・・		
			イ　符号	符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に活用できる ・・・		
			ウ　語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだりする際に活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも、活用できる ・・・		
			エ　文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に活用できる ・文　・・・ ・文構造　・・・ ・文法事項　・・・		

（思・判・表）第４回の議論を踏まえ、現行の英語の領域別目標を基に、話題とできることについて段階的に示す

※内容の具体的な文言及び学年内における「できること」の段階付けを含め、告示や解説を示すにあたり別途検討

構造化のイメージ（高・英語コミュニケーション（総合）Ⅰ（仮称）の例）

外国語の目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
外国語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

見方・考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）の目標

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
英語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを理解したり、これらを活用して、情報や考えなどを、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

内容

思考力、判断力、表現力等

（総合的な発揮）
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、
・基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、自分の考えを形成することができる。【理解する】
・情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】
・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】

	話題	日常的な話題について 身近なものを含む社会的な話題について
聞くこと	条件	話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、対話や基本的な構成の叙述、説明、放送、意見などを聞いて、
	できること	（ア）話し手の意図を把握することができる（※日常的な話題に対応） （イ）概要や要点を目的に応じて捉えることができる（※身近なものを含む社会的な話題に対応）
読むこと	条件	使用される語句や文、情報量などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な構成の叙述文、説明文、意見文などを読んで、
	できること	（ア）書き手の意図を把握することができる（※日常的な話題に対応） （イ）概要や要点を目的に応じて捉えることができる（※身近なものを含む社会的な話題に対応）
話すこと（やり取り）	条件	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、
	できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを、即興で話して伝え合うやり取りを続けることができる （※日常的な話題に対応） （イ）聞いたり読んだりしたことを基に、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して話して伝え合うやりとりができる
話すこと（発表）	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、
	できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して話して伝えることができる （イ）聞いたり読んだりしたことを基に、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して話して伝えることができる
書くこと	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて
	できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して書いて伝えることができる （イ）聞いたり読んだりしたことを基に、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して書いて伝えることができる

社会的な話題に中学校との接続の観点から「身近なもの」を位置づけ

「聞くこと」「読むこと」ではテキストのバリエーションを示す

知識及び技能

（統合的な理解）
英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

英語の特徴やきまり、に関する事項	ア 音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる ・・・
	イ 符号	符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に活用できる ・・・
	ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、聞いたり読んだりする際に活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも活用できる ・・・
	エ 文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に活用できる ・文 ・・・ ・文構造 ・・・ ・文法事項 ・・・

※内容の具体的な文言及び科目内における「できること」の段階付けを含め、告示や解説を示すにあたり別途検討

構造化のイメージ（高・英語コミュニケーション（発信） Ⅰ （仮称）の例）

外国語の目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
外国語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

見方・考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）の目標

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、話すこと、書くこと及びこれらを聞くこと、読むことと結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
英語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え、意見や主張などを、構成や表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

内容

思考力、判断力、表現力等

（総合的な発揮）
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、
・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や表現等を工夫して、伝えることができる。【表現する】
・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを、構成や表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】

話すこと（やり取り）	話題	日常的な話題について 身近なものを含む社会的な話題について
	条件	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて
	できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合うやり取りが円滑に進むように方策を講じながら、会話を継続することができる（※日常的な話題に対応） （イ）やり取りを通して必要な情報を得ることができる（※日常的な話題に対応） （ウ）ディスカッションやディベートにおいて、聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、構成や表現等を工夫して、情報や意見、主張などを話して伝え合うことができる
話すこと（発表）	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて
	できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、構成や表現等を工夫して話して伝えることができる（※日常的な話題に対応） （イ）スピーチやプレゼンテーションなどにおいて、聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、構成や表現等を工夫して、情報や自分の意見、主張などを話して伝えることができる
書くこと	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて
	できること	（ア）オンライン上などで、情報や自分の考え、気持ちなどを書いて伝え合うやり取りを行うことができる（※日常的な話題に対応） （イ）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、構成や表現等を工夫して叙述文、説明文、意見文などを書いて伝えることができる （ウ）聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、構成や表現等を工夫して、叙述文、説明文、意見文などの形式で、情報や意見、主張などを書いて伝えることができる

「話すこと（やりとり）」に日常的な会話を位置づけ

「書くこと」にやり取りを位置づけ

知識及び技能

（統合的な理解）
英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

英語の特徴やきまりに関する事項	ア 音声	音声の特徴を理解し、話す際に活用できる ・・・
	イ 符号	符号の意味や使い方を理解し、書く際に活用できる ・・・
	ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解し、話したり書いたりする際に活用できる ・・・
	エ 文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味や使い方を理解し、話したり書いたりする際に活用できる ・・・
	オ 文章の構成、論理の展開及び表現	様々な論理の構成・展開及びそれらに応じた表現を理解し、話したり書いたりする際に活用できる ・・・

論理の構成・展開の具体的な内容を充実

※内容の具体的な文言及び科目内における「できること」の段階付けを含め、告示や解説を示すにあたり別途検討

高・英語コミュニケーション（総合）（仮称）の目標と「統合的な理解」「総合的な発揮」（Ver. 3）

外国語の目標　外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
外国語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

見方・考え方　外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

※下線は高・外国語の目標との主な相違点

英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標	英語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを理解したり、これらを活用して、情報や考えなどを、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。
総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、自分の考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】		
統合的な理解	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。		

英コミュ（総合）Ⅱ（仮称）

「英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）」で育成した資質・能力を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動を通して、次のとおり更に伸ばすことを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標	※英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）と同様	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを理解したり、これらを活用して、情報や考えなどを、基本的な構成等を用いながら表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	※英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）と同様
総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、自分の考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、基本的な構成等を用いながら表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、基本的な構成等を用いながら表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】		
統合的な理解	※英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）と同様		

英コミュ（総合）Ⅲ（仮称）

「英コミュ（総合）Ⅱ（仮称）」で育成した資質・能力を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動を通して、次のとおり更に伸ばすことを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標	※英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）と同様	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語でやや複雑で多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを理解したり、これらを活用して、情報や考えなどを、構成や表現等を工夫して詳しく表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	※英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）と同様
総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・やや複雑で多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、自分の考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、構成や表現等を工夫して詳しく伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、構成や表現等を工夫して詳しく伝え合うことができる。【伝え合う】		
統合的な理解	※英コミュ（総合）（仮称）Ⅰと同様		

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

外国語 WG　高・英語コミュニケーション（発信）（仮称）の目標と「統合的な理解」「総合的な発揮」（Ver. 3）

外国語の目標　外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
外国語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

見方・考え方　外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

※下線は高・英語コミュニケーション（総合）（仮称）との主な相違点

英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、話すこと、書くこと及びこれらを聞くこと、読むことと結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標	英語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え、意見や主張などを、構成や表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。
総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】		
統合的な理解	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。		

英コミュ（発信）Ⅱ（仮称）

「英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）」で育成した資質・能力を、話すこと、書くこと及びこれらを聞くこと、読むことと結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり更に伸ばすことを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標	※英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）と同様	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え、意見や主張などを、構成や論理の展開、表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	※英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）と同様
総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や論理の展開、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や論理の展開、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】		
統合的な理解	※英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）と同様		

英コミュ（発信）Ⅲ（仮称）

「英コミュ（発信）Ⅱ（仮称）」で育成した資質・能力を、話すこと、書くこと及びこれらを聞くこと、読むことと結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり更に伸ばすことを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標	※英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）と同様	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え、意見や主張などを、構成や論理の展開、表現等を工夫して詳しく表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	※英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）と同様
総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や論理の展開、表現等を工夫して詳しく伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や論理の展開、表現等を工夫して詳しく伝え合うことができる。【伝え合う】		
統合的な理解	※英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）と同様		

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

「統合的な理解」「総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・外国語）

次の単元では、教科書で「**紹介する**」活動が扱われているな。

新出文法は「**接続詞**」か。教科書をなぞって活動するだけでは、子供たちは「英語で伝え合いたい」という気持ちにはならないだろうな。それに、学習内容を深く理解したり技能を身に付けたりできないだろうし、資質・能力も身に付きにくいだろうな。

そもそもこの単元では本質的にどういう資質・能力を育てたいんだっけ?

まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す

見方・考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

（総合的な発揮）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、

- 情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、考えを形成することができる。【理解する】
- 情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】
- 相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】

思・判・表

他教科や小学校を含めた前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。

（統合的な理解）

英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

知・技

生徒が最終的に「統合的な理解」「総合的な発揮」を身に付けられるように学習内容と活動を考えればいいのか。「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」の設定が鍵になるね。

「コミュニケーション活動」と「コミュニケーション活動を支える活動」とを往還する学習過程の中で、子供たちが、学んだ表現や文法事項等を使い、本単元におけるコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて表現できるようにしよう。

デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述や、小学校を含む前後の学習内容なども確認できるから個に応じた指導・支援を考えられる。

生徒が「英語で伝え合いたい」という気持ちをもち、既習事項と本単元で学んだ内容などを活用しながら「分かった！できた！」と思える単元を構想したいな。

生徒の実態や、育成したい資質・能力、小学校を含む前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえ、「コミュニケーション活動」と「コミュニケーション活動を支える活動」の往還を位置付けると、この単元に充てられる授業時数は何時間になるかな。

本単元では、生徒に「**相手に応じて、事実や自分の考えなどを紹介できる**」力を身に付けさせたい。本単元では「接続詞」を新たに学ぶから、紹介したいものを詳しく説明したり、おすすめしたい理由なども伝えたりできる。昨年度、総合的な学習の時間で地域のことを探究したし、小学校で食べ物のことに触れながらおすすめの場所の紹介をしているから、それらとつなげて「**住んでいる町の食べ物を紹介する**」単元にしよう。そして、オンラインで海外の生徒に実際に紹介する機会を設けよう。きっと生徒はワクワクするだろうな。

次は、学習の流れを考えよう。生徒が、本単元における「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」を理解し、活動の見通しを立てられるよう、単元の最初の時間の導入を工夫しよう。第２時以降は、教科書の内容理解と関連させた「コミュニケーション活動を支える活動」を行い、徐々に生徒が思考、判断、表現できるような「コミュニケーション活動」を行っていこう。単元の後半では、教科書で学んだことや既習事項を生かして「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」に応じて生徒が思考、判断、表現できる「コミュニケーション活動」を多く行おう。最終的には、海外の生徒に紹介をするので、学級の仲間やALTなど、紹介する人を変えることで、「相手に応じて紹介ができる」ような構成にしよう。その中で、知識・技能が身に付いていないと感じたら、「コミュニケーション活動を支える活動」を行いながら２つの活動を往還させていこう。

これで、本単元の学習内容や流れが決まった。パフォーマンステストも含めると、本単元に充てる授業時数は合計で９時間になるな。

本単元における「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」や、学習内容、学習の流れが決まったので、評価計画を立てるか。育成したい資質・能力をきちんと見取れる評価にしたいな。

本単元では、「話すこと［発表］」に焦点を当てて指導してきたから、**パフォーマンス課題**を設定して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を見取ることにしよう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるから便利だな！

外国語 WG

「統合的な理解」「総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

中学校第２学年相当　単元名：My Favorite Food in ○○

※「単元目標・評価規準」については、現行学習指導要領の「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を、「統合的な理解」及び「総合的な発揮」を踏まえて事務局にてイメージとして作成したもの。

（総合的な発揮）**コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、**
・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。【理解する】
・**情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】**
・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】

（統合的な理解）
英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
日本に来たことがない海外の生徒に「食べてみたい！」と思ってもらえるように、住んでいる町のおすすめしたい食べ物とその理由などを整理して紹介することができる。（「話すこと［発表］」）

（単元目標・評価規準）知識及び技能
［知識］接続詞などの特徴やきまりを理解することができる。
［技能］住んでいる町のおすすめしたい食べ物とその理由などを、接続詞などを用いて伝える技能を身に付けることができる。

※知技を思判表と同一のパフォーマンステストで評価する例

パフォーマンス課題：日本に来たことがないALTの家族に「食べてみたい！」と思ってもらえるように、住んでいる町のおすすめしたい食べ物とその理由などを整理して紹介しよう。

単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり

「コミュニケーション活動」 ⇔ **「コミュニケーション活動を支える活動」**

などを通して、知・技と思・判・表の資質・能力を一体的に育成

時	学習活動	「コミュニケーション活動」	「コミュニケーション活動を支える活動」
9	●パフォーマンステスト 知 思 ●単元の振り返り	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 ・住んでいる町のおすすめしたい食べ物とその理由など（事実や自分の考え等）を整理する。 ・接続詞などを活用して、おすすめしたい食べ物とその理由などを伝え合う。 ・相手の好みや食文化など、必要な情報を整理し、聞き出す。 ・自分の考えや聞き出した内容などを基に、まとまりのある内容で伝え合う。【表現する】【伝え合う】	接続詞の特徴やきまり（意味や使い方）を理解している。［知識］ 住んでいる町のおすすめしたい食べ物とその理由などを、接続詞などを用いて伝え合う。［技能］
8	●海外の生徒とオンラインで、相手の好みや食文化に合わせて住んでいる町のおすすめしたい食べ物を紹介し合う 知 思		
7	●クラスメイトやALTと、相手の好みに合わせて住んでいる町のおすすめしたい食べ物を紹介し合う	・（下記に加えて）コミュニケーションの目的を達成するために、相手から聞き出したい情報を整理し、聞き出す。	相手の好みなどを聞き出す際の表現等や接続詞becauseの意味や使い方の理解を基に、「好きなもの（食べ物や本など）とその理由」を伝え合う。［技能］
6 5 4 3 2	●教科書の対話文や本文を読み、引用するなどしながら、紹介したいこととその理由などを伝え合う	・（下記に加えて）分かりやすく伝えるために、伝える順番等を考えて伝え合う。 接続詞や既習の表現、教科書本文等を参考にして、 ・おすすめしたい食べ物とその理由（事実や自分の考え等）を整理する。 ・接続詞などを活用して、おすすめしたい食べ物とその理由などを伝え合う。 【表現する】【伝え合う】 語句や文法事項等の理解を基に、ご当地の食べ物などについて書かれた教科書本文の概要を捉える。【理解する】	教科書本文等を参考にしながら、相手から聞き出す際の表現等の意味や使い方を理解する。［知識］ because, when, if, that などの接続詞を、話や文章などの中で話したり書いたりする。［技能］ （例）・接続詞ifを使って、「時間があったらしたいこと」を 聞き出したり、「時間があったらできること」について伝え合ったりする。 ・I think thatを使って、「自分の考え」を伝え合う。 ご当地の食べ物などについて書かれた教科書本文の語句や表現等の意味や使い方を理解する。［知識］ becauseなどの接続詞の特徴やきまり（意味や使い方）を理解する。［知識］
1	●単元の目標を理解するとともに、住んでいる町の好きな食べ物についてやり取りする	既習の表現や文法事項等を活用して、住んでいる町の好きな食べ物を紹介し合う。 教師が紹介する町の好きな食べ物について、既習の表現や文法事項等と関連付けて理解する。	既習の表現や文法事項等の理解を基に、住んでいる町の好きな食べ物について聞き取ったり、伝え合ったりする。［技能］ 住んでいる町の好きな食べ物を紹介する際に用いられる表現や文法事項等を理解する。［知識］

単元の目標を理解する。コミュニケーションを行う目的：日本に来たことがない海外の生徒に「食べてみたい！」と思ってもらうため
場面：おすすめしたい住んでいる町の食べ物やその理由などを紹介する
状況など：日本に来たことがない海外の生徒とオンライン交流の際に伝える

本単元の学習に関連が強い既習内容：■小学校：おすすめの場所の紹介（食べ物のことを含む）　■第１学年：自己紹介、 学校紹介　■他教科など：第１学年「総合的な学習の時間」で地域のことを探究

（学びに向かう力・人間性等の「見取る姿 」）　※今後検討

※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

※「外国語」では、外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して育成することとしており、それぞれの活動内容が育成する資質・能力と一体となっている場合が多い